

3

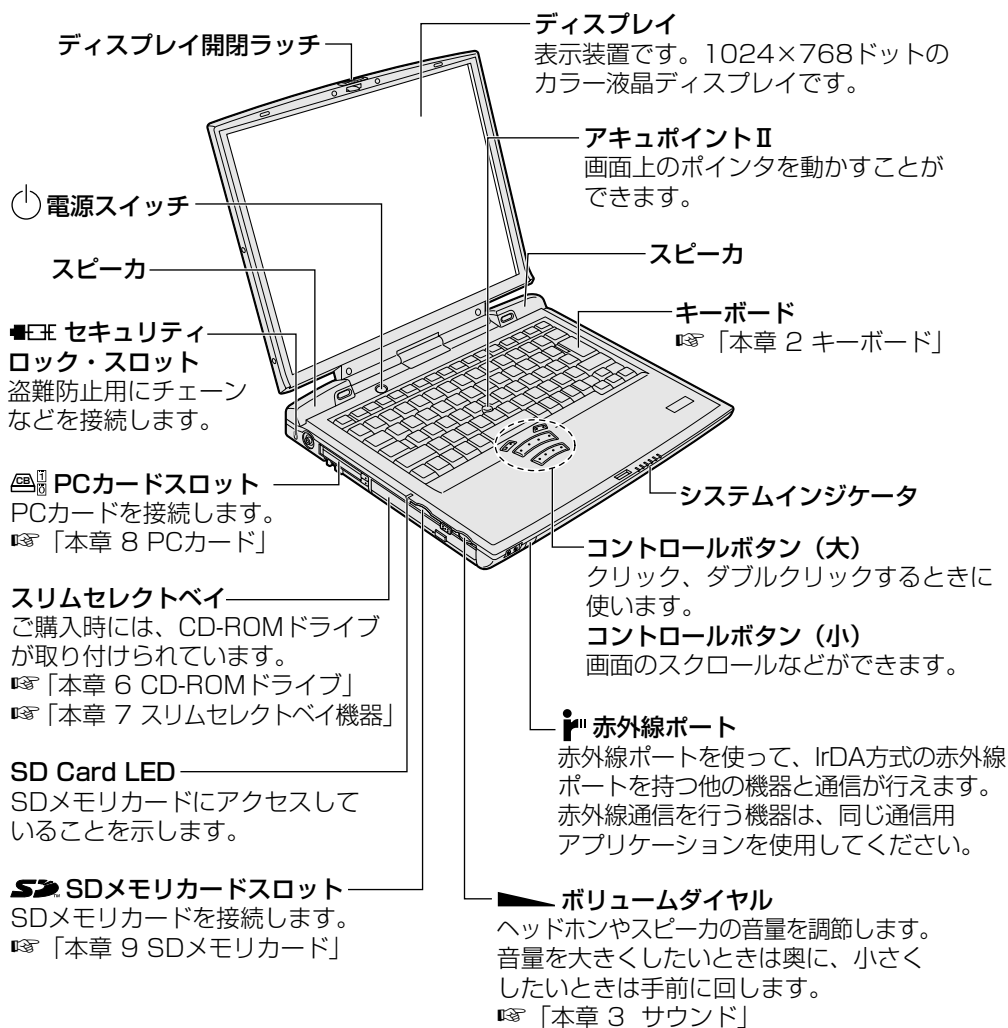
本体の機能

本章では、本製品に用意されている機能と、
インターフェースについて説明します。

1	各部の名称	50
2	キーボード	52
3	サウンド	60
4	バッテリー	61
5	フロッピーディスクドライブ	74
6	CD-ROM ドライブ	77
7	スリムセレクトベイ機器	80
8	PC カード	92
9	SD メモリカード	97
10	増設メモリ	100
11	インターフェースへの接続	103

1 各部の名称

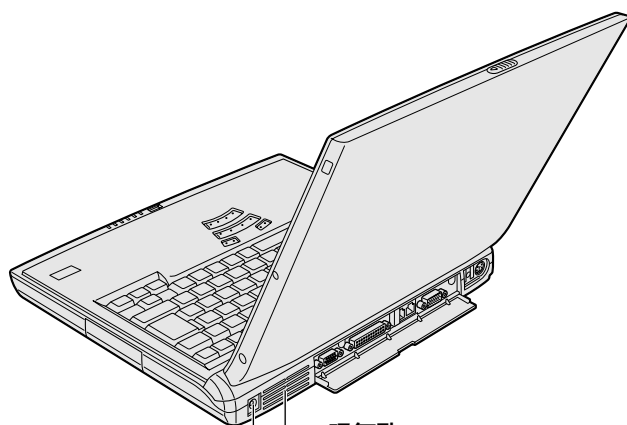
ここでは、各部の名称と機能を簡単に説明します。各部についての詳しい説明は、それぞれに関連する章で行います。周辺機器を取り付ける場所については、「本章 11 インタフェースへの接続」で説明します。



インジケータ

それぞれは、次の状態を示します。

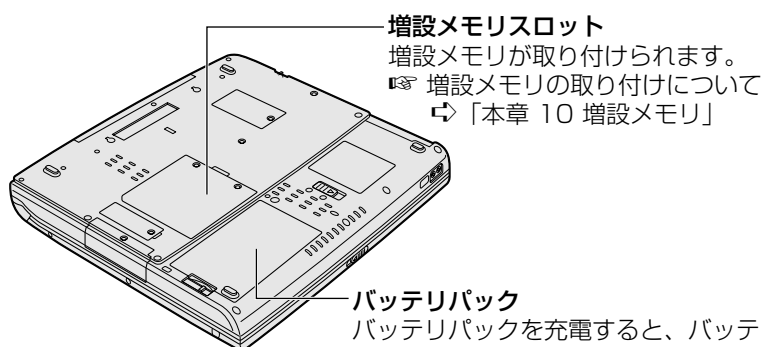
	DC IN LED	電源コードの接続 [1章 1-3 電源に関する表示]
	Power LED	電源の状態 [1章 1-3 電源に関する表示]
	Battery LED	バッテリーの状態 [本章 4-1 バッテリー充電量を確認する]
	Disk LED	標準ハードディスクにアクセスしている
	Slim Select Bay LED	スリムセレクトベイに取り付けられている機器へのアクセス状態またはセカンドバッテリーパック（別売り）の充電状態
	ワイヤレスコミュニケーション LED	無線LAN機能の状態



吸気孔

電源コネクタ

付属のACアダプタを接続します。



増設メモリスロット

増設メモリが取り付けられます。

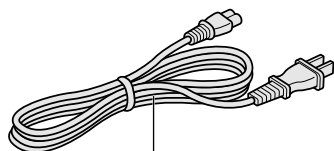
☞ 増設メモリの取り付けについて

☞ 「本章 10 増設メモリ」

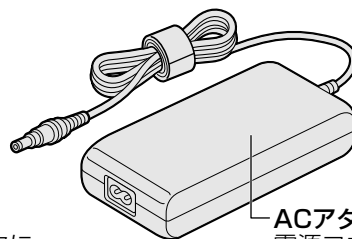
バッテリーパック

バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用できます。

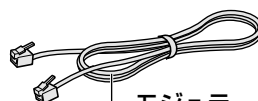
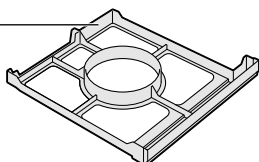
☞ 詳細について ☞ 「本章 4 バッテリー」



電源コード

(国内専用、海外用は別売り)
電源コンセントからACアダプタに
電源を供給するケーブルです。ACアダプタ (国内、海外兼用)
電源コネクタに接続し、パソコン
本体に電源を供給します。

ウェイトセーバ

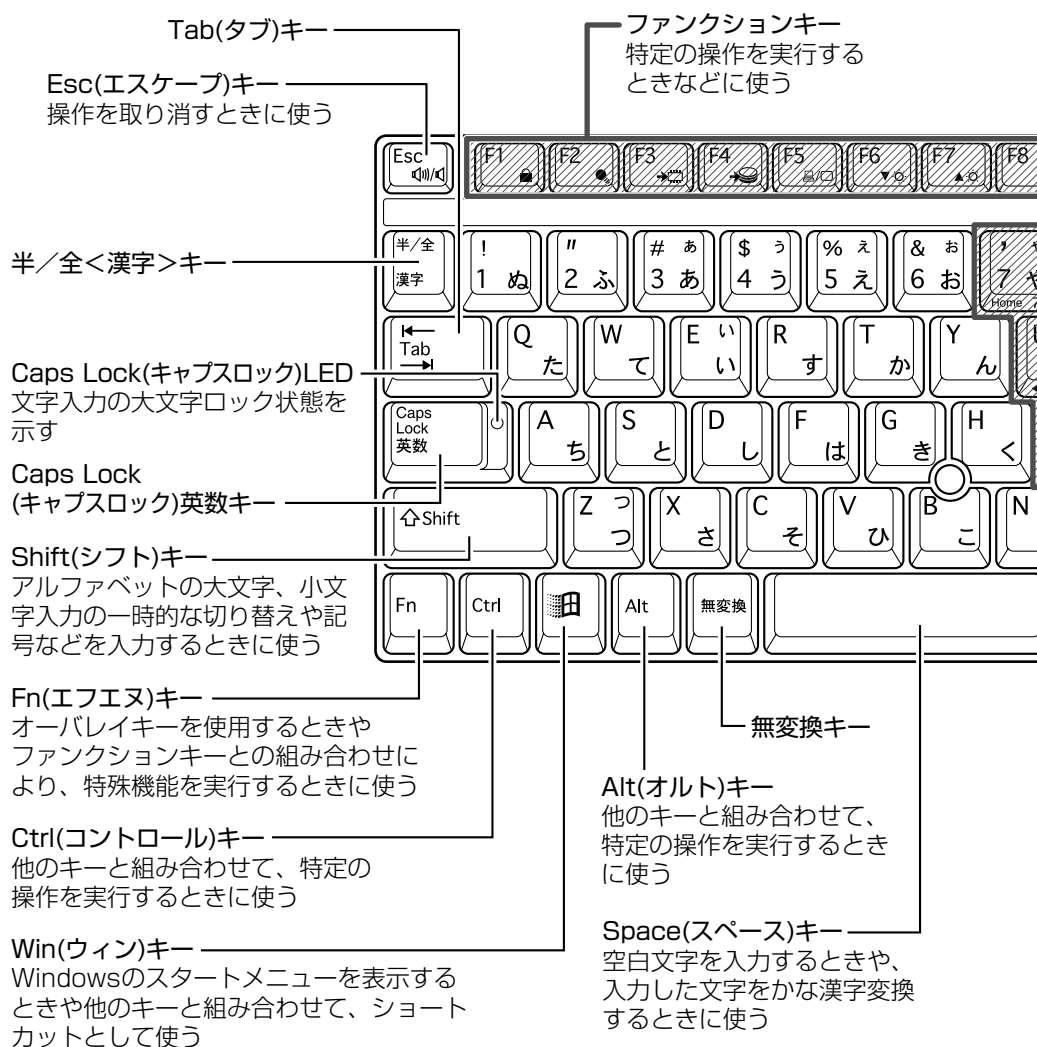
スリムセレクトベイに
機器を装着しない場合、
パソコン本体に取り付
けます。

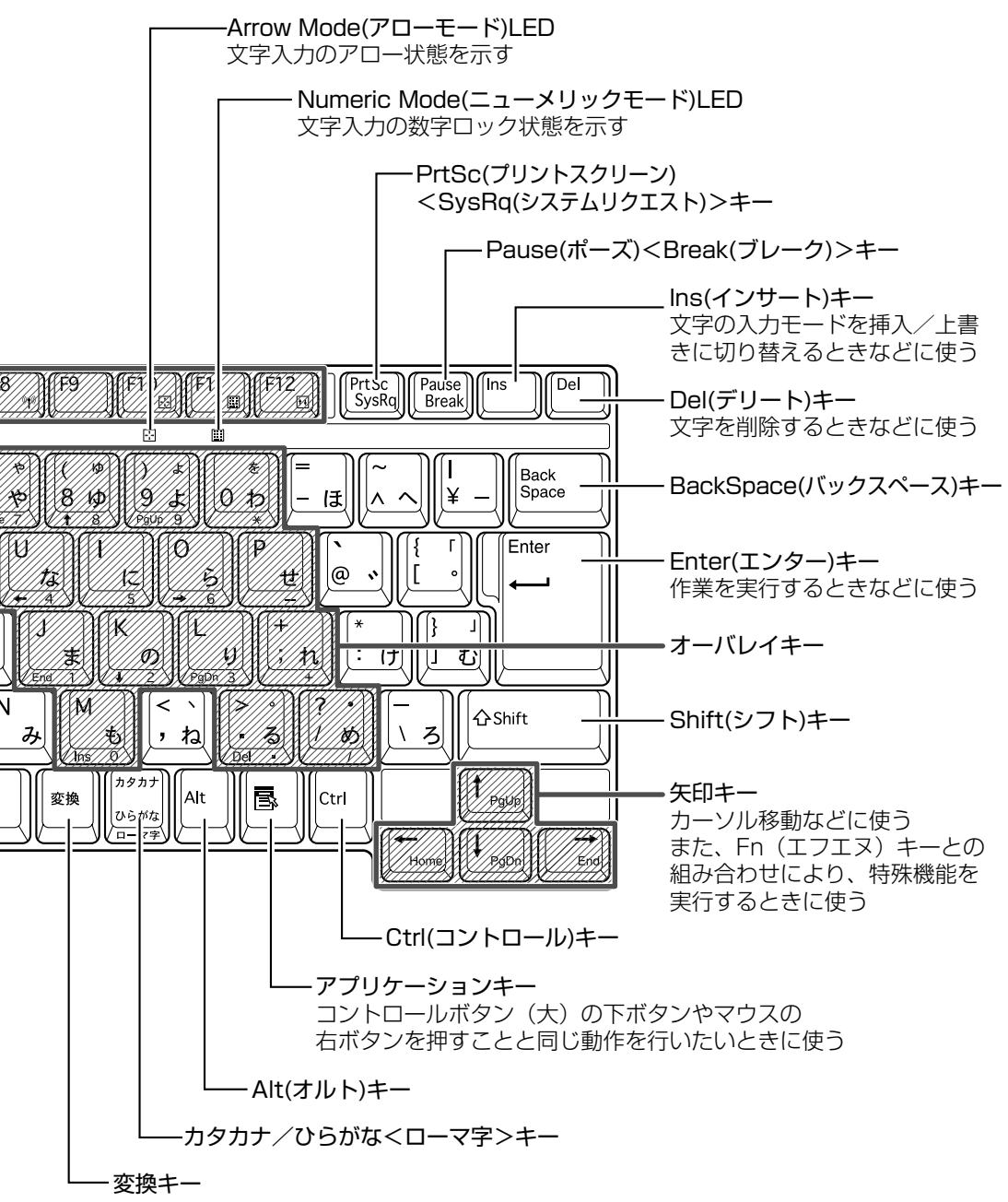
モジュラーケーブル

電話回線と内蔵モデムを
接続するケーブルです。

2 キーボード

キーボードの使いかたはソフトウェアによって違ってきますが、ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。





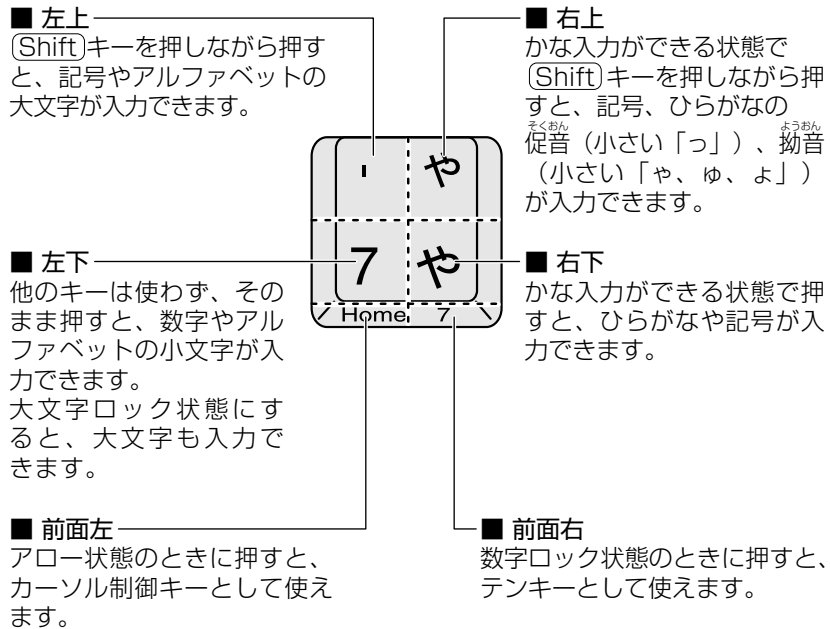
● 文字キー

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。

文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。




☞ かな入力について ⇨ 「本節 - 日本語入力システム (MS-IME)」

☞ アロー状態、数字ロック状態について ⇨ 「本節 - [Fn] キーを使った特殊機能キー」



● [Fn] キーを使った特殊機能キー

キー	内容
[Fn]+[Esc] 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート (消音) にします。元に戻すときは、もう1度 [Fn]+[Esc] キーを押します。
[Fn]+[F1] 〈インスタントセキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。キーボードなどからの入力はできなくなります。 解除するには、次の操作を行なってください。 [画面のプロパティ] でスクリーンセーバのパスワードによる保護を設定していない場合： [Shift] キーや [Ctrl] キーを押す、またはアキュポイント II を操作する

	<p>[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] または [再開時によろ画面に戻る] をチェックしている場合： チェックボックスは、スクリーンセーバーを選択すると有効になります。</p> <p>① [Shift]キーや[Ctrl]キーを押す ② パスワード入力画面に次のパスワードを入力し、[Enter]キーを押す</p> <p> : Windows のログオンパスワード  : [画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで設定したパスワード</p>
[Fn]+[F2] 〈省電力モードの設定〉	<p>[Fn]+[F2]キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 [Fn]キーを押したまま、[F2]キーを押すたびに省電力モードが切り替わります。</p>
[Fn]+[F3] 〈スタンバイ機能の実行〉	<p>[Fn]+[F3]キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます。</p>
[Fn]+[F4] 〈休止状態の実行〉	<p>[Fn]+[F4]キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると休止状態が実行されます。</p>
[Fn]+[F5] 〈表示装置の切り替え〉	<p>表示装置を選択できます。  詳細について ⇨ [本章 11- CRT ディスプレイやテレビを接続した場合]</p>
[Fn]+[F6] 〈ディスプレイの輝度を下げる〉	<p>[Fn]キーを押したまま、[F6]キーを押すたびに画面の輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。</p>
[Fn]+[F7] 〈ディスプレイの輝度を上げる〉	<p>[Fn]キーを押したまま、[F7]キーを押すたびに画面の輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。</p>
[Fn]+[F8] 〈無線通信機能の切り替え〉 *本製品ではサポートして おりません。Bluetooth、 無線LAN同時搭載モデル のみ有効です。	<p>[Fn]キーを押したまま、[F8]キーを押すたびに使用する無線通信機能が切り替わります。</p>
[Fn]+[F10] (アロー状態) 〈オーバーレイ機能〉	<p>キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます。 アロー状態のときは、[F10]キーの下のArrow Mode LEDが点灯します。 アロー状態を解除するには、もう1度 [Fn]+[F10]キーを押します。</p>






[Fn]+[F11] (数字ロック状態) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます。 数字ロック状態のときは、 [F11] キーの下のNumeric Mode LED が点灯します。 数字ロック状態を解除するには、もう 1 度 [Fn]+[F11] キーを押します。 アプリケーション (Microsoft Excel など) によっては異なる場合があります。
[Fn]+[F12] 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで [↑] [↓] [←] [→] キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう 1 度 [Fn]+[F12] キーを押します。
[Fn]+[↑] 〈PgUp (ページアップ)〉	[Fn] キーを押したまま、 [↑] キーを押すと、前のページに移動できます。
[Fn]+[↓] 〈PgDn (ページダウン)〉	[Fn] キーを押したまま、 [↓] キーを押すと、次のページに移動できます。
[Fn]+[←] 〈Home (ホーム)〉	[Fn] キーを押したまま、 [←] キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
[Fn]+[→] 〈End (エンド)〉	[Fn] キーを押したまま、 [→] キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

● **[Fn]** キーを使ったショートカットキー

[Fn] (ウィン) キーと他のキーとの組み合わせにより、次のようにショートカットとして使用できます。

キー	操作
[Fn]+[R]	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
[Fn]+[M]	すべてをアイコン化する
[Shift]+[Fn]+[M]	すべてのアイコン化を元に戻す
[Fn]+[F1]	『Windows のヘルプ』を起動する
[Fn]+[E]	[XP] [2000] : [マイコンピュータ] 画面を表示する [98] : Windows エクスプローラを起動する
[Fn]+[F]	ファイルまたはフォルダを検索する
[Ctrl]+[Fn]+[F]	他のコンピュータを検索する
[Fn]+[Tab]	タスクバーのボタンを順番に切り替える
[Fn]+[Break]	[システムのプロパティ] 画面を表示する

● 特殊機能キー

キー	内容
 [Ctrl] + [Shift] + [カタカナひらがな]	カナロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キー右下に印刷されたひらがなを、カタカナで入力できます(*1)。
 [Ctrl] + [Caps Lock 英数]	大文字ロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キー左上に印刷された英字などの文字を、大文字で入力できます(*1)。 大文字ロック状態のときは、[Caps Lock 英数]キーの Caps Lock LED が点灯します。
[Shift] + [Caps Lock 英数]	
[Ctrl] + [Alt] + [Del]	 [Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。  [Windows のセキュリティ] 画面が表示されます。  プログラムの強制終了画面が表示されます。 もう1度同じキーを押すとシステムを再起動します。
[PrtSc]	現在表示中の全体画面をクリップボードにコピーします。
[Alt] + [PrtSc]	現在実行中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

*1 カナロック状態や大文字ロック状態を解除するには、もう1度同じキー操作をします。
 ロック状態の優先度は、カナロック状態 > 大文字ロック状態です。



・Windows 98の場合、システムが操作不能になったとき以外は[Ctrl]+[Alt]+[Del]キーは使用しないでください。データが消失するおそれがあります。

☞ [Ctrl]+[Alt]+[Del]キーでの再起動について

⇒ [7章 1-2- 調子がおかしい! - その他調子がおかしい]

● 日本語入力システム (MS-IME)

日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

本製品には、日本語入力システム MS-IME が用意されています。

MS-IME のバージョンはお使いになるモデルによって異なります。

MS-IME2002 : Windows XP モデル、すべてのシステムのアプリケーションモデル

MS-IME2000 : Windows 2000 モデル

MS-IME98 : Windows 98 モデル

起動したときは、英数字の入力ができるようになっていますが、次の方法で日本語を入力できるようにします。

MS-IME2002 の場合

- **[半/全]** キーを押す
言語バーは次のようになります。



MS-IME2000 / MS-IME98 の場合

- **[半/全]** キー (MS-IME2000 の場合) または **[Alt]+[半/全]** キー (MS-IME98 の場合) を押す
ツールバーは次のようになります。



● 入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。

ローマ字入力とかな入力は次の方法で切り替えられます。



XP 2000 : **[Ctrl]+[Shift]+[カタカナひらがな]** キー

98 : **[Alt]+[カタカナひらがな]** キー


この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。

常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。

MS-IME2002 の場合

- ① 言語バーの [ツール] アイコン () または [入力方式] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックする
- ② [全般] タブで [ローマ字入力/かな入力] の設定をする

MS-IME2000 / MS-IME98 の場合

- ① ツールバーの [プロパティ] アイコン () をクリックする
- ② [全般] タブで [ローマ字入力/かな入力] の設定をする

● 漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、**[Space]**キーを押します。

目的の漢字ではない場合は、もう1度 **[Space]**キーを押して、他の漢字を表示します。


さらに **[Space]**キーを押すと、候補の一覧が表示されます。

[↑] **[↓]** キーで選択し、**[Enter]**キーを押します。


☞ MS-IMEの使いかた ⇄ 『MS-IMEのオンラインヘルプ』

● ヘルプの起動方法

MS-IME2002の場合

- ① 言語バーの [ヘルプ] アイコン () をクリックする
- ② [Microsoft(R) IME スタンダード 2002] - [目次とキーワード] をクリックする

MS-IME2000 / MS-IME98の場合

- ① ツールバーの [ヘルプ] アイコン () をクリックする
- ② [目次とキーワード] をクリックする

3 サウンド

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカを用意しています。
スピーカの音量の調整方法について説明します。
標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
サウンド機能は Microsoft Windows Sound System、および Sound Blaster Pro
に適合しています。サウンドに関する設定については、あわせて『Windows のヘルプ』
や『ボリュームコントロールのヘルプ』をご覧ください。



メモ

- ・使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカでハウリングを起こし、高く大きな音が発生することがあります。この場合は、次のようにしてください。
 - ・本製品のボリュームダイヤルで音量を調整する
 - ・使用しているアプリケーションソフトの設定を変える
 - ・外部マイクをスピーカから離す

● ボリュームダイヤルで調整する

本体左側面のボリュームダイヤルで調整します。
音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。
☞ ボリュームダイヤル ☞ 「本章 1 各部の名称」

● ボリュームコントロールで調整する

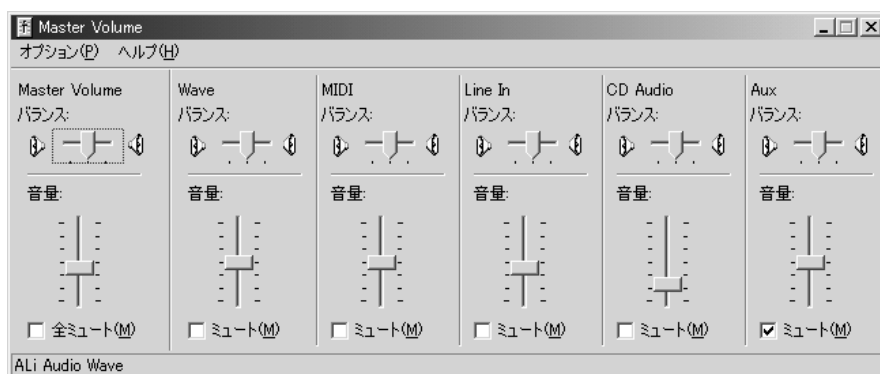
1 XP

[スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [エンターテインメント] - [ボリュームコントロール] をクリックする

2000 98

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [エンターテインメント] - [ボリュームコントロール] をクリックする

ボリュームコントロールが起動します。



*画面は Windows 2000 の場合です。

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。

詳しくは、『ボリュームコントロールのヘルプ』をご覧ください。

4 バッテリ

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

ご購入時は、バッテリーはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

また、本製品のスリムセレクトベイにセカンドバッテリーパック（別売り）を取り付けて使用できます。

☞ セカンドバッテリーパックの取り付け ☞ 「本章 7 スリムセレクトベイ機器」

本製品に添付の『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。

☞ 『安心してお使いいただくために バッテリーパックの取り扱いについて』



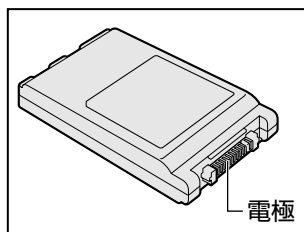
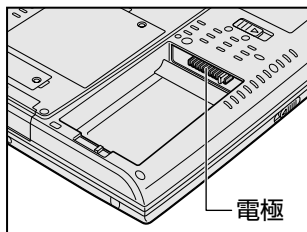
警告

・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS012）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため発煙、火災のおそれがあります。



注意

- ・バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- ・別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常と思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、AC アダプタを接続して充電してください。
- ・バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- ・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。



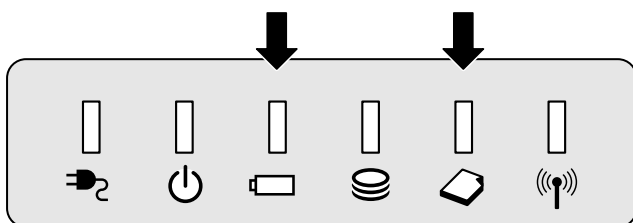
1 バッテリー充電量を確認する


バッテリー駆動で使う場合、バッテリー充電量を確認しておかないと使用中にバッテリーの充電量が減少し、途中で作業を中断したり、あわててACアダプタを接続することになります。

バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。


LEDで確認する

次のシステムインジケータの図で矢印の付いているものが、バッテリーの状態を示すアイコンです。




Battery  LEDは次の状態を示しています。

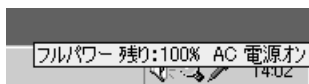
緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・バッテリーが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリー異常

また、スリムセレクトベイにセカンドバッテリーパックを取り付けている場合は、Slim Select Bay  LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。

● アイコンで確認する

タスクバーの [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

● ACアダプタを接続している場合



● バッテリー駆動で使用している場合



*画面は Windows 2000 の場合です。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



メモ

- ・タスクバーに表示される [省電力] アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- ・「東芝省電力ユーティリティ」の [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに [省電力] アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

● バッテリー充電量が減少したとき


電源が入っている状態でバッテリー充電量の減少が進むと、次のように警告します。

● Battery LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの減少を示しています)

この場合はただちに AC アダプタを接続し、電源を供給してください。



お願い



- ・長時間使用しないで自然に放電しってしまったときは、Battery  LED で放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

② バッテリーを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

● 充電方法


1 パソコン本体を電源に接続する


DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。



パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF に関わらず常時充電されます。

 電源の接続 ⇨ 「1 章 1-1 電源に接続する」

2 Battery LED が緑色になるまで通電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

 Battery  LED について ⇨ 「本節 1 バッテリー充電量を確認する」



お願い

・バッテリーパックが極端に熱いか冷えていると、正常に充電されないことがあります。バッテリーを充電するには、10～30℃の室温で充電してください。



メモ

- ・パソコン本体を長時間で使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・スリムセレクトベイにセカンドバッテリーパックを取り付けている場合は、標準のバッテリーパックから充電が開始されます。
- ・AC アダプタを長時間接続したまま使うと、バッテリー駆動時間が短くなる場合があります。1ヶ月に1度はバッテリー駆動で使用し、再充電してください。

● 充電時間

充電時間の目安は次のとおりです。

取り付けているバッテリー	電源ON	電源OFF
標準のバッテリーパック	約3～9時間	約2.5時間
セカンドバッテリーパック	約3～7.5時間	約2.5時間

(注) 周囲の温度が低いとき、周辺機器を取り付けている場合など、パソコンの使用状況によってこの時間よりも長くかかることがあります。

● 使用できる時間

バッテリーでの使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。
次の時間は目安にしてください。

● 充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	標準のバッテリーパック	標準のバッテリーパックと セカンドバッテリーパックの両方
ノーマル	約3.0時間	約5.9時間

(注) 当社指定のプログラムで測定



メモ

・スタンバイ機能を実行したときは、放電しきるまでの時間が短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

● 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使用しないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減少します。
この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

● フル充電した状態で電源を切った場合

パソコン本体の状態	保持時間
スタンバイ	約4日間
電源切断 (シャットダウン) 休止状態	約8週間

● 時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われます。普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power LED が点灯)	約 10 時間以上
電源 OFF (Power LED が消灯)	ほとんど充電しない



メモ

・時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning (警告) メッセージが出ます。

③ バッテリパックを交換する

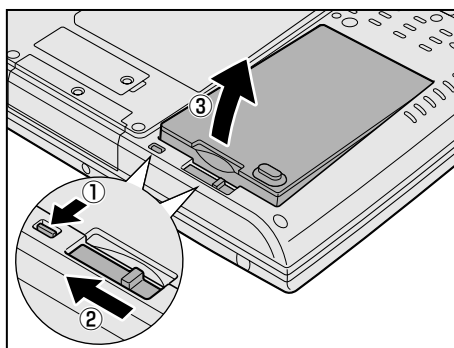


お願い

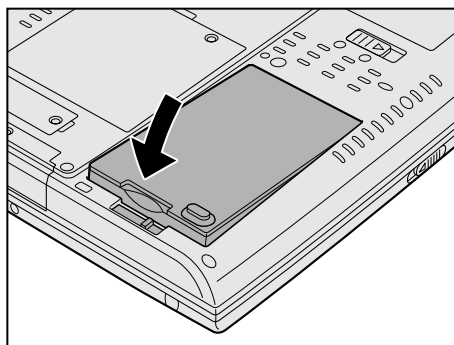
・ バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

● 取りはずし／取り付け

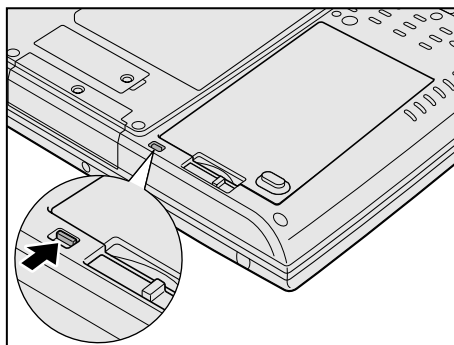
- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類ははずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 4 バッテリロックを解除し①、バッテリーリリースラッチをスライドし②、バッテリーパックを取り出す③



- 5 交換するバッテリーパックを、コネクタの位置をあわせ、静かに押し込む



- 6 バッテリロックをする



4 バッテリを節約する

バッテリーを節約して、バッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- バッテリーの充電を完了（フル充電）する
- バッテリー駆動で使用した後は、バッテリーを充電しておく
- スタンバイ状態、休止状態を活用し、こまめに電源を切る
スタンバイ状態や休止状態とは、電源を切った後、次に電源を入れると、直前の状態を再現することができる機能です。
 - ☞ スタンバイ状態、休止状態について ⇨ 「2章 3 パソコンの使用を中断する」
- パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 - ☞ パネルスイッチ機能 ⇨ 「2章 4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力に設定する
 - ☞ 省電力設定 ⇨ 「本節 5 東芝省電力ユーティリティ」

5 東芝省電力ユーティリティ

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。これらの機能を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。

省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリー消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。

● 起動方法


1 XP

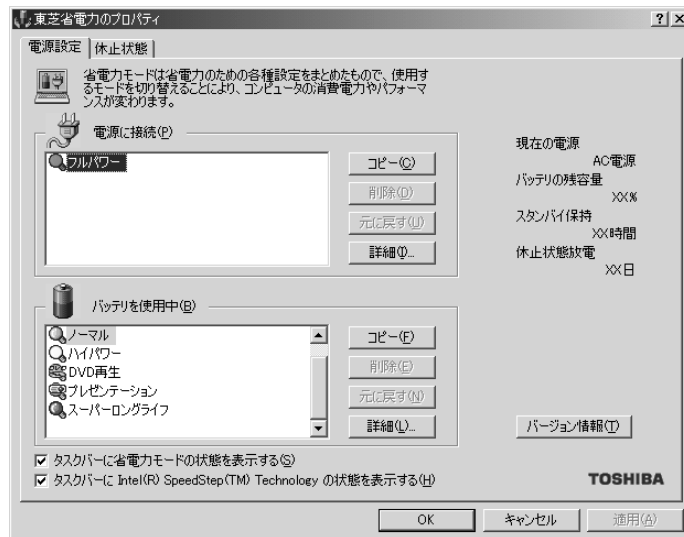
[スタート] - [コントロールパネル] をクリック - [パフォーマンスとメンテナンス] をクリック - [東芝省電力] をクリックする

2000 98

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリック - [東芝省電力] をダブルクリックする

「東芝省電力ユーティリティ」が起動します。

タスクバーの [省電力] アイコン () をダブルクリックしても起動できます。



*画面は Windows 2000 の場合です。

● [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。

また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続] [バッテリーを使用中] には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になりたい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] はACアダプタに接続している／していないによって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー	最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続]（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中]（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。
スーパーロングライフ	消費電力を最優先にして省電力制御を行います。

● 省電力モードの作成

- 1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- 2 [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- 3 その省電力モードの名前を変更する
- 4 必要に応じて省電力の設定を変更する


● 省電力モードの削除

- 1 削除する省電力モードをクリックする
- 2 [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。



・ご購入時に用意されている7つの省電力モードを削除することはできません。

● タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す [省電力] アイコン () がタスクバーに表示されます。このチェックをはずすとアイコンは表示されません。
[省電力] アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、「東芝省電力ユーティリティ」を開くことができます。

● タスクバーに Intel(R) SpeedStep(TM) Technology の状態を表示する

ここをチェックすると現在のCPU周波数 (インテル® SpeedStep™ テクノロジー搭載モバイル Pentium® III プロセッサ M) の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。このチェックをはずすとアイコンは表示されません。
CPU周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU周波数を変更することができます。

● 【休止状態】 タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。
使用する場合には、[休止状態をサポートする] をチェックします。



・休止状態が有効 ([東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている) の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態を実行して電源を切ります。休止状態が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

● 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

● 起動方法

- 1 **【電源設定】** タブで利用したい省電力モードを選択し、**【詳細】** ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



● 【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

● 【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。

CPU 熱制御

CPU が高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

Intel(R) SpeedStep(TM) Technology

Intel(R) SpeedStep(TM) Technology による CPU 周波数の設定を行います。
【高速】 にすると処理速度は早くなりますが、消費電力は増えます。

CPUの処理速度

バッテリー残量に応じた処理速度を設定します。

バッテリー駆動時間を延ばすには、[低速] で使用する方が効果的ですが、処理速度も遅くなります。



メモ

- ・ [CPUの処理速度] を [低速] に設定していても、パソコン使用中のCPUの過熱がおさまらないときは、危険防止のため自動的に電源が切れます (危険防止機能)。この場合は、涼しい場所でしばらくパソコンを放置してからご使用ください。それでも電源が切れる場合は、お近くの保守サービスにご連絡ください。
- ・ 危険防止機能が働いて電源が切れたときは、保存していないデータは失われる場合があります。定期的にデータのバックアップを取るようになしてください。

モニタの輝度

画面の輝度 (バックライトの明るさ) を変える設定です。画面の輝度を下げる (バックライトを暗くする) ことで、バッテリーの消費を抑えられます。

モニタの電源を切る

キーボード、およびアキュポイントII、マウスをある一定時間使用していないとき、画面表示を自動的にオフにする設定です。画面のバックライトを消灯するので、画面に使用する電力をほぼゼロにすることができ、もっとも省電力の効果があります。

ハードディスクの電源を切る

ハードディスクを一定時間使用していないときに、ハードディスクドライブのモータを停止して、バッテリーの消費を抑えられます。

システムスタンバイ、システム休止状態

[システム休止状態] は Windows XP モデルまたは Windows 2000 モデルのみ設定できます。

パソコンを一定時間使用していないときに、自動的にスタンバイ機能を実行、または休止状態にして、システムの動作をオフにすることができます。

システムオフまでの時間を、[システムスタンバイ]、[システム休止状態] のスライダーバーで設定してください。ただし、[システムスタンバイ] は [システム休止状態] より長い時間には設定できません。



メモ

- ・ システムオフ時間は、最後にハードウェアにアクセスしてからの時間です。[ハードディスクの電源を切る] で時間を設定した場合は、ハードディスクドライブが停止した後、指定した時間がたつとシステムがオフになります。
- ・ Windows XP モデルまたは Windows 2000 モデルで [システムスタンバイ] と [システム休止状態] を同時に設定している場合、設定した時間後にスタンバイ状態になってから、休止状態になります。
例) [システムスタンバイ] を 5 分後、[システム休止状態] を 10 分後に設定したとき 5 分後にスタンバイ状態になり、さらに 5 分後に休止状態になります。

● [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。



ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

スタンバイ機能

スタンバイ機能を実行します。作業を中断したときの状態をメモリに保存します。次に電源を入れると、以前の状態が再現されます。

☞ スタンバイ機能について ⇨ 「2章 3-1 スタンバイ機能」

休止状態

休止状態にします。パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

☞ 休止状態 ⇨ 「2章 3-2 休止状態」

電源オフ

Windows を終了して電源を切ります。

●スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める

ここにチェックを入れると Windows のパスワードを入力しないとスタンバイや休止状態から復活できないようになります。

● [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合に表示されます。

● [デバイスの設定] タブ

省電力モードで使用するとき、デバイスを有効/無効にする設定を行います。

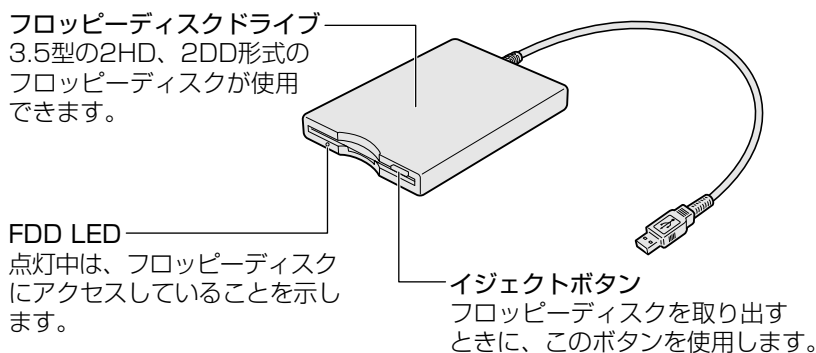
5 フロッピーディスクドライブ

本製品では、同梱のUSB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、ほかのパソコンとデータをやり取りすることができます。

1 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブはUSB コネクタに接続してください。

☞ 「本章 11 インタフェースへの接続」



● フロッピーディスクドライブのご使用について

フロッピーディスクドライブをお使いになる場合は、次のことに注意してください。

- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れる可能性があります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。



注意 ・パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDD LED が点灯しているとき）に、電源を切ったり、USB ケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

② フロッピーディスク

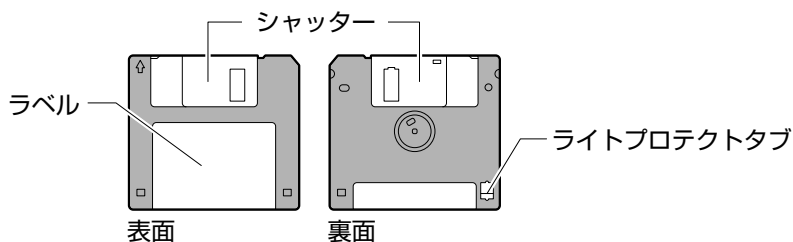
使用できるフロッピーディスクの種類と、保存できる容量は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

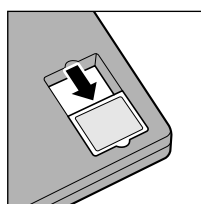
Windows用にフォーマットされていないフロッピーディスクを使用する場合はフォーマットが必要です。

● ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。

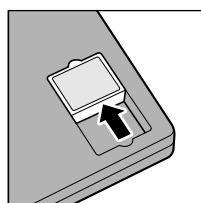


ライトプロテクトタブの状態で、次のようになります。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

📖 フロッピーディスクの使用について ⇨ 「6章 1- フロッピーディスク」

● フロッピーディスクのフォーマット

新品のフロッピーディスクを使うときには、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクを使うときは、必ずフォーマットを行なってください。

他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。

Windows でのフォーマット方法については、『Windows のヘルプ』をご覧ください。



お願い

- ・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。1度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。



メモ

- ・他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものもあります。
- ・2HD フロッピーディスクを2DDタイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。
- ・Windows XPをお使いの場合、フォーマットできるフロッピーディスクは2HDタイプのみ、容量は1.44MBのみになります。

6 CD-ROM ドライブ

本製品には標準でCD-ROMドライブがスリムセレクトベイに取り付けられています。他の機器（別売り）に差し替えることができます。

☞ 「本章 7 スリムセレクトベイ機器」


本製品に添付のマニュアル『安心してお使いいただくために』に、CDをお使いになるときに守っていただきたいことが記述されています。

CDをお使いになる場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。

☞ 『安心してお使いいただくために CD / DVD の取り扱いについて』



注意

- ・ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。CD-ROMドライブの故障の原因になります。
- ・Slim Select Bay  LED およびディスクトレイ LED が点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CDを取り出す操作をしないでください。CDが傷ついたり、CD-ROMドライブが壊れるおそれがあります。
- ・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCDのデータやCD-ROMドライブが壊れるおそれがあります。
- ・CD-ROMドライブのトレイを開けたときに、CDが回転している場合には、停止するまでCDに手を触れないでください。ケガのおそれがあります。



お願い

- ・CD-ROMドライブに保守・修理が必要になった場合には、お近くの保守サービスにご相談ください。

1 使用できるCD

読み込みできるCDは、次の種類です。

① 音楽用CD

8cm、12cmの音楽用CDが聴けます。

② フォトCD

③ CD-ROM

使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。

④ CD エクストラ

⑤ CD-R

⑥ CD-RW



メモ

- ・CD-R、CD-RWは、メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

☞ CDの取り扱いについて ☞ 「6章 1- CD / DVD」

② CDのセットと取り出し

CDは、電源が入っているときにセット／取り出しができます。

次の場合は、ディスクトレイはイジェクトボタンを押しても出てこない、またはすぐには出てきません。

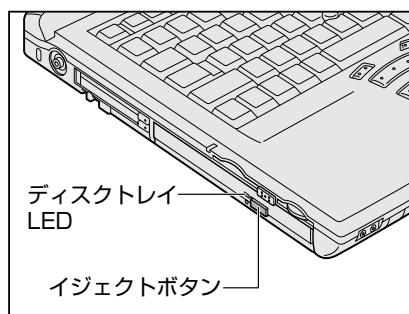
- ・電源を入れた直後
- ・リセットした直後
- ・ディスクトレイを閉じた直後
- ・Slim Select Bay LEDが点灯しているとき

これらの場合には、Slim Select Bay LED、ディスクトレイ LEDの点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。



お願い

- ・パソコン本体を持ち運ぶときは、CD-ROMドライブにCDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。

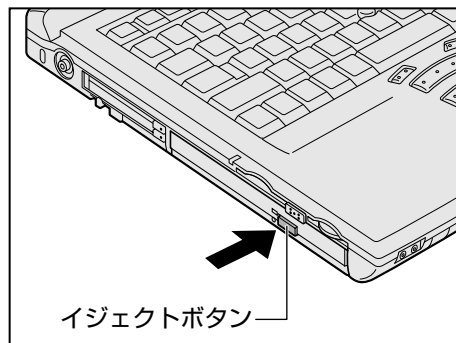


● CDのセット

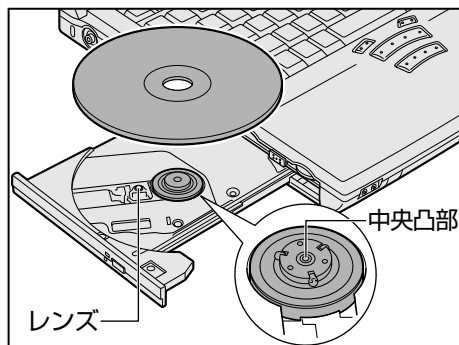
CDをセットするには、次のように行います。

- 1 パソコン本体の電源を入れる
- 2 イジェクトボタンを押し、ディスクトレイを引き出す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきますので、すべて引き出してください。



- 3** 文字が書いてある面を上にして、CDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする。カチッと音がして、セットされていることを確認してください。



- 4** 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



お願い

- ・ CDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- ・ CDを正しくディスクトレイにセットしないとCDを傷つけることがあります。



メモ

- ・ 傷ついたり汚れのひどいCDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れを拭きとってから再生してください。
- ・ CDの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

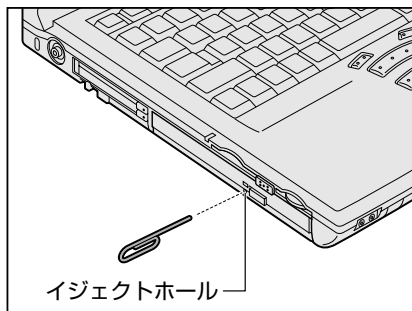
● CDの取り出し

- 1** パソコン本体の電源を入れる
- 2** イジェクトボタンを押し、ディスクトレイを引き出す
CDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。
- 3** CDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す
CDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。
- 4** 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



メモ

- ・ 電源を切っているときにイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。故障などで電源が入らない場合は、CD-ROMドライブのイジェクトホールを、先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。



お願い

- ・ 電源を入れ、CD-ROMドライブのディスクトレイLEDが点滅しなくなったことを確認してから、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押してください。点滅しなくなったことを確認しないと、ディスクトレイが出てこない場合があります。

7 スリムセレクトベイ機器

本製品のスリムセレクトベイには、次あげる機器を取り付けることができます。

- ・ CD-ROM ドライブ（標準で取り付けられています）
- ・ CD-R/RW ドライブ（別売り）
- ・ マルチドライブ（別売り）
- ・ セカンドハードディスク（別売り）
セカンドハードディスクの他に、セカンドハードディスクアダプタ（別売り）が必要です。
- ・ セカンドバッテリーパック（別売り）

いずれもご使用にならないときは、スリムセレクトベイにウェイトセーバを取り付けてください。



- 注意**
- ・ 安全のためにスリムセレクトベイには、スリムセレクトベイ機器、またはウェイトセーバのいずれかを取り付けてお使いください。
 - ・ Slim Select Bay LED が点灯しているときには、スリムセレクトベイ機器の差し替えを行わないでください。パソコン本体あるいはスリムセレクトベイ機器が故障する場合があります。また、データが消失するおそれがあります。

1 スリムセレクトベイ機器の差し替え



お願い

- ・ パソコン本体の電源を入れたままでスリムセレクトベイ機器の取り付け／取りはずしを行う場合は、パネルスイッチ機能を無効にしてから行なってください。保存していないデータが消失するおそれがあります。
- ・ ネジをはずす際は、十字ねじ回しビット0番のドライバを使用してください。



メモ

- ・ スリムセレクトベイに取り付けられている機器が最優先起動ドライブに設定されている場合、その機器を取りはずそうとすると、警告のウィンドウが表示されます。

1 スリムセレクトベイ機器を使用するアプリケーションを終了する

2 パネルスイッチ機能を無効にする

① XP

[スタート] - [コントロールパネル] をクリック - [パフォーマンスとメンテナンス] をクリック - [東芝省電力] をクリックする

2000 98

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリック - [東芝省電力] をダブルクリックする

- ② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] を、[何もしない] に設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] で [OK] ボタンをクリックする

3 Disk LED、Slim Select Bay LED、SD Card LED が消灯していることを確認する





メモ


- ・ セカンドバッテリーパック、ウェイトセーバを取り出すときは、手順4は不要です。手順5以降の操作を行なってください。

4 スリムセレクトベイ機器の使用を停止する


XP

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXXX (スリムセレクトベイ機器名) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2000

- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (スリムセレクトベイ機器名) を停止します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

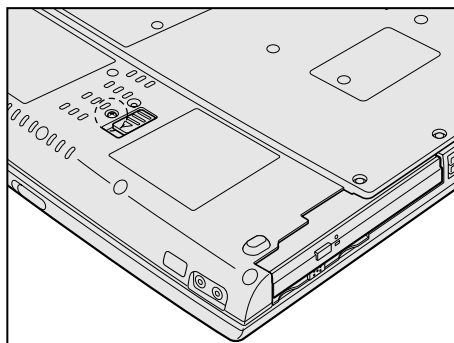
98

- ① タスクバーの [スリムセレクトベイのデバイスを停止します] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (スリムセレクトベイ機器名) を停止します] をクリックする
- ③ 「取り出しても安全です」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

5 ディスプレイを閉じて、パソコン本体を裏返す

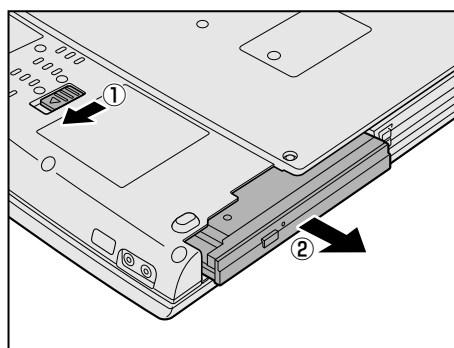
6 スリムセレクトベイロック用のネジがロック解除の位置 (手前側) になっていることを確認する

スリムセレクトベイはネジでロックすることができます。ご購入時、ネジはロック解除の位置 (手前側) にとめられています。ネジが奥側にとめられている場合は、手前側に付け替えてロック解除してください。



7 スリムセレクトベイラッチをスライドし①、スリムセレクトベイ機器を引き出す②

スリムセレクトベイラッチをスライドさせた状態で、機器をしっかりつかんで水平に引き出してください。



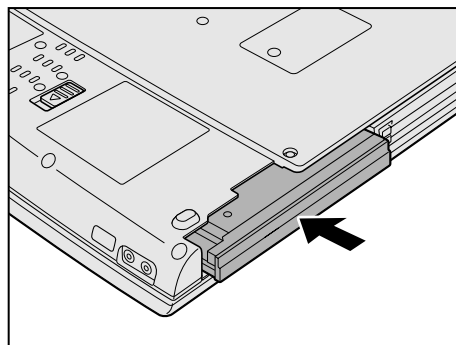
8 スリムセレクトベイ機器にアダプタを取り付ける

取り付けるスリムセレクトベイ機器に応じて、アダプタを取り付けてください。CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、マルチドライブにはアダプタは必要ありません。

☞ セカンドハードディスク ⇨ 「本節 3 セカンドハードディスク」

☞ セカンドバッテリーパック ⇨ 「本節 4 セカンドバッテリーパック」

9 上下を確認し、スリムセレクトベイ機器をカチッと音がするまでしっかり差し込む



10 必要であればネジを奥側にとめ、スリムセレクトベイをロックする

2 CD-R/RW ドライブ／マルチドライブ

スリムセレクトベイにCD-R/RWドライブ（別売り）またはマルチドライブ（別売り）を取り付けると、CD-R、CD-RWにデータを書き込むことができます。

またマルチドライブではDVDの迫力ある映像を楽しむことができます。

CD／DVDのセットと取り出しについては、「本章 6-2 CDのセットと取り出し」をご覧ください。

☞ CD／DVDの取り扱いについて ⇨ 「6章 1- CD／DVD」

● 使用できるCD（CD-R/RWドライブ、マルチドライブ共に対応）

読み込みできるCD

① 音楽用CD

8cm、12cmの音楽用CDが聴けます。

② フォトCD

③ CD-ROM

使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。

④ CDエクストラ

⑤ CD-R

⑥ CD-RW



・CD-R、CD-RWは、メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合があります。

書き込みできる CD

① CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
8 倍速対応 CD-R メディアをご使用ください。

② CD-RW

1 / 2 / 4 倍速対応 (マルチスピード) CD-RW メディアまたは High-Speed CD-RW (4 ~ 10 倍速) 対応メディアをご使用ください。High-Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合の書き込み速度は最大 8 倍速になります。
書き込みのアプリケーションは、CD-R/RW ドライブまたはマルチドライブに同梱の「Easy CD Creator」「DirectCD」をお使いください。

● 使用できる DVD (マルチドライブのみに対応)

① DVD-ROM

② DVD-Video

● DVD-Video の再生について

DVD-Video の再生には、マルチドライブに同梱の「InterVideo WinDVD」をお使いください。

「InterVideo WinDVD」で DVD-Video を再生する場合、次のことに気をつけてお使いください。

- DVD-Video 再生時は、AC アダプタを接続してください。また、使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動しないでください。

「InterVideo WinDVD」の Readme ファイルをお読みのうえ、ご使用ください。



メモ

・DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD の再生はサポートしていません。

● CD-R、CD-RW への書き込みについて

書き込みを行うためのアプリケーションとして、「DirectCD」「Easy CD Creator」をご用意しています。ご使用の際は CD-R/RW ドライブまたはマルチドライブに同梱の CD からインストールしてください。

CD-R、CD-RW に書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえご使用ください。

守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ご使用のパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。



CD-R/RW ドライブまたはマルチドライブは書き込みエラーを防ぐバッファアンダーランエラー防止機能を内蔵していますが、電源切断やドライブへのショックなどの本体異常、記録メディアの状態などによっては、処理が正常に行えずエラーとなる場合があります。

書き込みに失敗した CD-R の損害については、当社は一切その責任を負いません。

また、記憶内容の変化・消失など、CD-R、CD-RW に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

● 書き込む前に

- CD-R メディアに書き込む際には、8 倍速対応の CD-R メディアをご使用ください。
- CD-RW メディアに書き込む際には、1 / 2 / 4 倍速対応（マルチスピード）CD-RW メディアまたは High-Speed CD-RW（4～10 倍速）対応メディアをご使用ください。High-Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合の書き込み速度は最大 8 倍速になります。
- 次のメーカーの CD-R、CD-RW をご使用になることをおすすめします。
CD-R : 太陽誘電（株）、三井化学（株）、三菱化学（株）、リコー（株）、日立マクセル（株）
CD-RW : 三菱化学（株）、リコー（株）
上記以外のメーカーの CD-R、CD-RW をご使用になると、うまく書き込みができない場合があります。
- 必ず AC アダプタを接続して電源コンセントに接続してください。
バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などにより書き込みに失敗するおそれがあります。
- スクリーンセーバなど CPU に負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。

- ウィルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことをおすすめします。
- LAN を経由しての書き込みは行わないでください。LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行なってください。
- 「DirectCD」「Easy CD Creator」以外の CD-R、CD-RW 書き込み用ソフトウェアは動作保証しておりません。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。
 省電力機能について  「本章 4-5 東芝省電力ユーティリティ」
- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。



メモ

・CD-R に書き込みできるのは 1 回限りです。書き込みに失敗した CD-R は再利用できませんが、CD-RW はフォーマットすると再利用できます。

● 書き込み／削除を行うときは

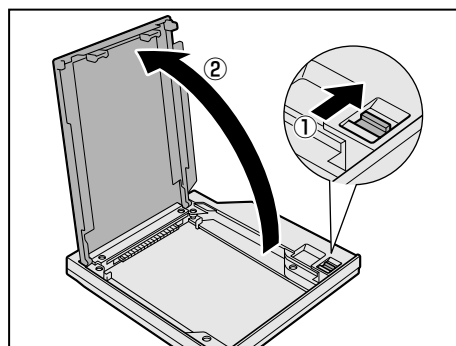
- アクュポイント II を操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動しないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
 PC カード、SD メモリカード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、PRT コネクタに接続する機器、PS/2 コネクタに接続する機器、COMMS コネクタに接続する機器
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、必ずデータ書き込み終了後に、データが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「Easy CD Creator」の「data CD project」（データ CD プロジェクト）で、重要なデータを書き込む場合は、メニューバーから [ファイル] - [CD プロジェクトプロパティ] をクリックし、[全般] タブで [書き込み後 CD 上のファイルを検証する] をチェックしてください。
 正常に書き込まれていることを確認できます。

③ セカンドハードディスク

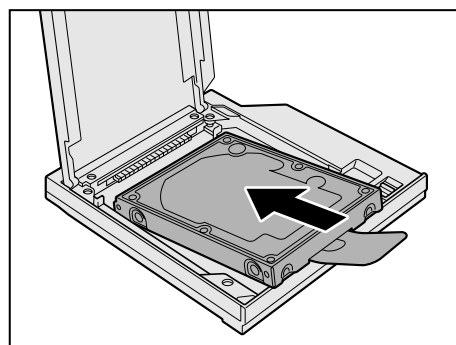
スリムセレクトベイにセカンドハードディスク（別売り）を取り付けることで、パソコンの記憶容量を増やすことができます。セカンドハードディスクアダプタ（別売り）に取り付けてから、スリムセレクトベイに取り付けてください。

● セカンドハードディスクアダプタへの取り付け

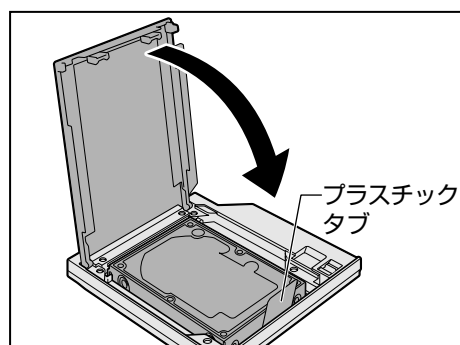
- 1 セカンドハードディスクアダプタのカバーのロックを解除し①、カバーを開く②



- 2 セカンドハードディスクを差し込む



- 3 プラスチックタブをセカンドハードディスクアダプタ内に収納しながらカバーを閉める



- 4 カバーをロックする

☞ パソコン本体への取り付け ⇨ 「本節 1 スリムセレクトベイ機器の差し替え」

● セカンドハードディスクアダプタからの取りはずし

- 1 セカンドハードディスクアダプタのカバーのロックを解除し、カバーを開く
- 2 プラスチックタブを持ち上げる
セカンドハードディスクがセカンドハードディスクアダプタからはずれます。
- 3 セカンドハードディスクを取り出し、カバーを閉め、ロックする

● セカンドハードディスクの設定

セカンドハードディスクは出荷時にパーティションの設定およびフォーマットはされていません。ご使用になるために、次の設定を行なってください。

● Windows XP の場合

- 1 コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 4 [管理ツール] をクリックする
- 5 [コンピュータの管理] をダブルクリックする
- 6 [ディスクの管理] をクリックする
セカンドハードディスクを取り付けた後の最初の起動では、セカンドハードディスク（例：ディスク 1）は [不明] と表示されます。
- 7 [ディスク 1] の領域を右クリックし、表示されたメニューから [ディスクの初期化] をクリックする
- 8 初期化するディスク（例：ディスク 1）をチェックし [OK] ボタンをクリックする
- 9 セカンドハードディスク（例：ディスク 1）の [未割り当て] の領域を右クリックする
- 10 表示されるメニューで [新しいボリューム作成] をクリックする
[新しいボリュームウィザード] が起動します。
- 11 [次へ] ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する
詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

● Windows 2000 の場合

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [管理ツール] をダブルクリックする
- 4 [コンピュータの管理] をダブルクリックする
- 5 [ツリー] タブの [ディスクの管理] をクリックする
セカンドハードディスクを取り付けた後の最初の起動では、セカンドハードディスク（例：ディスク 1）は [不明] と表示されます。
- 6 [ディスク 1] の領域を右クリックし、表示されるメニューで [署名] をクリックする
- 7 署名するディスクをチェックし [OK] をクリックする
セカンドハードディスク（例：ディスク 1）は [ベーシック] と表示されます。
- 8 セカンドハードディスク（例：ディスク 1）の [未割り当て] の領域を右クリックする
- 9 表示されるメニューで [パーティションの作成] をクリックする
[パーティションの作成ウィザード] が起動します。
- 10 [次へ] ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する
- 11 設定内容を確認し、[完了] ボタンをクリックする
パーティションのステータスが [正常] に変われば完了です。
詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

● Windows 98 の場合

1 Windows を起動し、[スタート] - [プログラム] - [MS-DOS プロンプト] を選択する

[MS-DOS プロンプト]画面が表示されます。

2 FDISKと入力し、[Enter] キーを押す

次の画面が表示されます。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクで他のオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)?[Y]

ここではFAT32システムを使用します。

3 [Y]キーを押し、[Enter]キーを押す

FDISK オプションが起動します。

FDISKオプション

現在のハードディスク： 1

次のうちからどれか選んでください：

1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください： [1]

FDISKを終了するにはEscキーを押してください。

4 [5][Enter] とキーを押す

メニューの [5. 現在のハードディスクドライブを変更] が選択されます。

[ディスク：1] は標準ハードディスク、[ディスク：2] はセカンドハードディスクを示します。

5 [2][Enter] とキーを押す

ディスク：2（セカンドハードディスク）が選択され、FDISK オプションの初期画面に戻ります。

6 [1][Enter] とキーを押す

[1.MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成] が選択されます。

7 **[Enter]** とキーを押す

[2. 拡張 MS-DOS 領域を作成] が選択されます。

8 **[Enter]** キーを押す

拡張 MS-DOS 領域が作成されます。

9 **[Esc]** キーを押す

10 **[Enter]** キーを押す

拡張 MS-DOS 領域内に、論理 MS-DOS ドライブが作成されます。(ドライブ D : に割り当てられます)。

11 **[Esc]** キーを 3 回押し、FDISK オプションを終了する

12 EXIT と入力し、**[Enter]** キーを押す

MS-DOS プロンプトが終了します。

13 [スタート] - [Windows の終了] - [再起動する] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

システムが再起動します。

[マイコンピユータ] を起動し、セカンドハードディスク (D :) が表示されていることを確認してください。

14 [マイコンピユータ] 画面からセカンドハードディスク (D :) を選択する

15 メニューバーから [ファイル] - [フォーマット] を選択する

[フォーマット] 画面が表示されます。タイトルバーに「フォーマット (D :)」と表示されていることを確認してください。



お願い

・ 選択するドライブを間違えないでください。フォーマットすると、ディスクの内容はすべて消去されてしまいます。

16 [フォーマットの種類] から [通常のフォーマット] を選択し、[開始] ボタンを選択する

警告のメッセージが表示されます。

17 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが終了すると、結果が表示されます。確認して [閉じる] を選択してください。

フォーマット終了後、スキャンディスク (ディスクのエラーをチェックする機能) が起動します。スキャンディスクを行う場合はメッセージに従って操作してください。

以上でセカンドハードディスクドライブの設定が終了し、使用できるようになります。

18 再起動する



お願い

・ セカンドハードディスクを基本 MS-DOS 領域と拡張 MS-DOS 領域で作成した場合、セカンドハードディスクのドライブは、基本領域が D :、拡張領域が E : 以降に割り当てられます。
・ 再起動後にロングファイル名が使用できない場合は、[マイコンピユータ] で新しいドライブを開き、メニューバーから [表示] - [最新の情報に更新] を選択してください。



メモ

・ 本記述は、標準ハードディスクとセカンドハードディスク (別売り) を対象としています。2 つのハードディスクは、購入時の状態を想定しています。

4 セカンドバッテリーパック

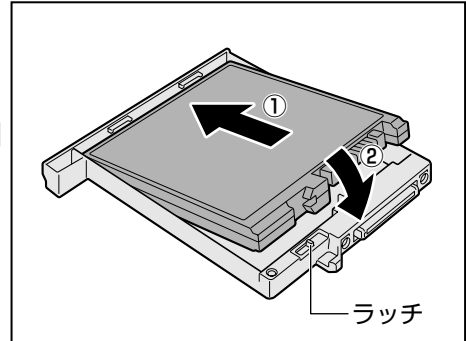
スリムセレクトベイにセカンドバッテリーパック（別売り）を取り付けることで、より長い時間バッテリー駆動で使うことができます。セカンドバッテリーパックに同梱のアダプタに取り付けてから、スリムセレクトベイに取り付けてください。

● アダプタへの取り付け

- 1 コネクタ部分をあわせ①、アダプタにセカンドバッテリーパックを取り付ける②

☞ パソコン本体への取り付け

⇨ 「本節 1 スリムセレクトベイ機器の差し替え」



3
章

本体の機能

● アダプタからの取りはずし

- 1 ラッチをスライドし、セカンドバッテリーパックを取り出す

セカンドバッテリーパックが持ち上がるので、アダプタから取り出してください。

8 PC カード

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- スマートメディアアダプタカード
- SCSI カード
- フラッシュメモリカード など

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

お使いの PC カードがホットインサージョンに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PC カードに付属の説明書』をご覧ください。



メモ

- ・ PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
 - ・ 通信回線が遅くなる
 - ・ 通信回線が切断される
 - ・ ダイアルに失敗する
 - ・ サウンド再生時に音飛びが発生する

● 使用できる PC カードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よくご確認ください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

使用スロット	使用可能タイプ
1（上側）	TYPE II
0（下側）	TYPE II / III



注意

- ・ ホットインサージョンに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・ PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- ・ PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。



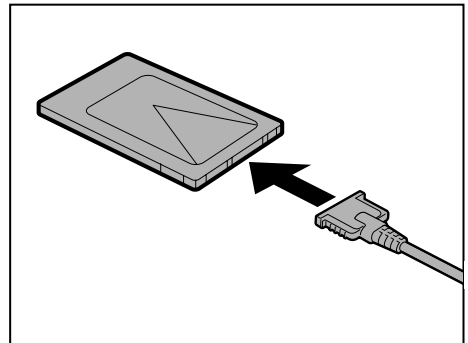
お願い

- ・ 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。



● 取り付け

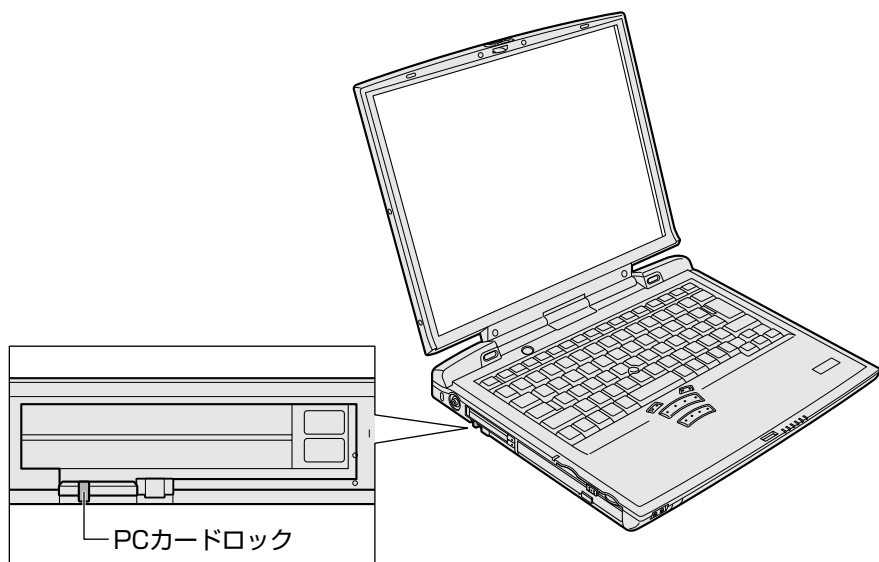
1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。



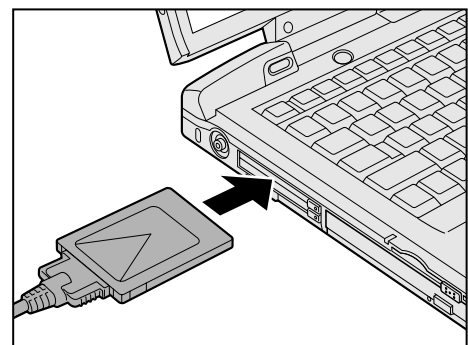
2 PCカードロックを解除する

図のようにPCカードロックが左側（）にあることを確認してください。右側（）にある場合は、左にスライドしてロックを解除してください。



3 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する

カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押し込んでください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードは使用できません。



4 PCカードロックを右側（）にする



カードを接続した後、カードを使用できるように設定されているかどうかを確認してください。

🔊 カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PCカードに付属の説明書』


● 取りはずし

1 PCカードの使用を停止する


XP

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン（）をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXXX（取りはずすPCカード名）を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[閉じる] ボタン（）をクリックする

2000

- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン（）をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX（取りはずすPCカード）を停止します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

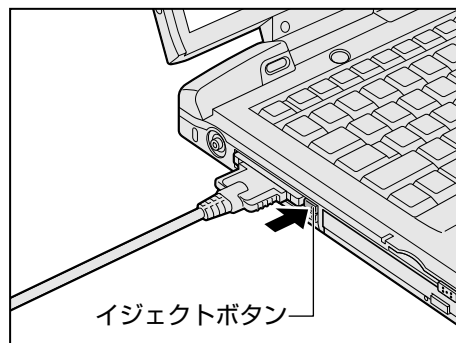
98

- ① タスクバーの [PCカード] アイコン（）をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX（取りはずすPCカード）の中止] をクリックする
- ③ 「安全に取りはずせます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 PCカードロックを解除（左側）にする

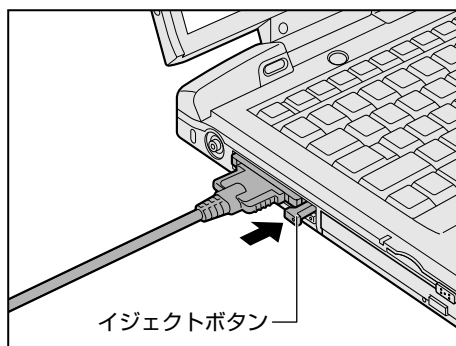
3 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。

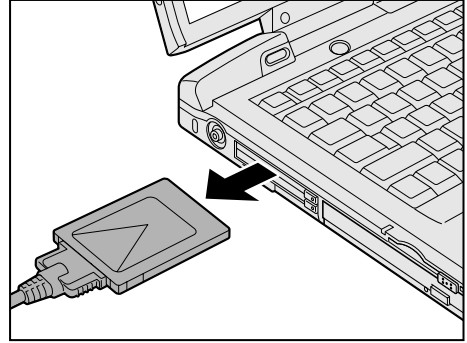


4 もう1度イジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。



5 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



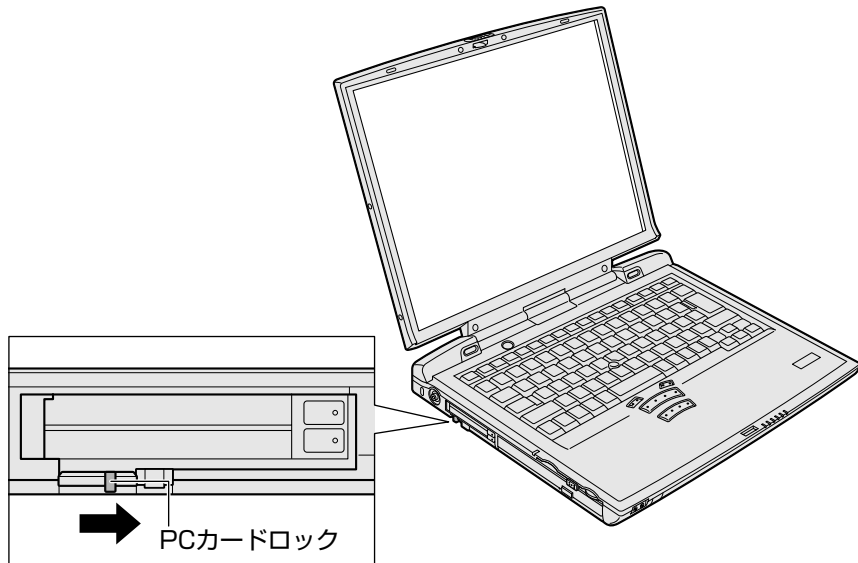
お願い

・カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

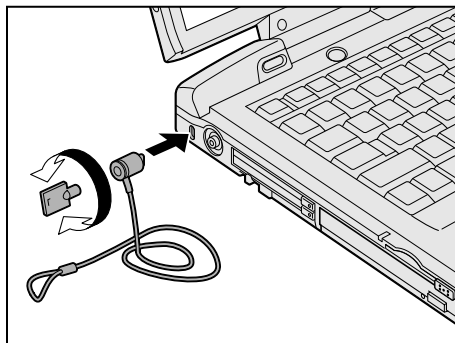
● PCカードをセキュリティロックする

PCカードロックとセキュリティロックを使用することでPCカードが取りはずせないようにすることができます。PCカードを取り付け後、この操作を行なってください。またこの操作は必要なときのみ行なってください。

1 PCカードロックを右側（）にする



2 セキュリティロックをする



お願い

・セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

9 SD メモリカード

SD メモリカードをパソコン本体に差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。本製品では、8 / 16 / 32 / 64 / 128MB のSD メモリカードを使用できます。マルチメディアカードは使用できません。



お願い

・SD メモリカードをデジタルカメラなど他の機器で使用する場合、フォーマットは使用する機器で行なってください。パソコン上でフォーマットを行うと、他の機器で使用できなくなる場合があります。

● 著作権保護について

SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。



メモ

・SDMI (Secure Digital Music Initiative)
デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体。

● 著作権について

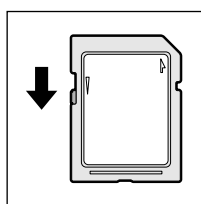
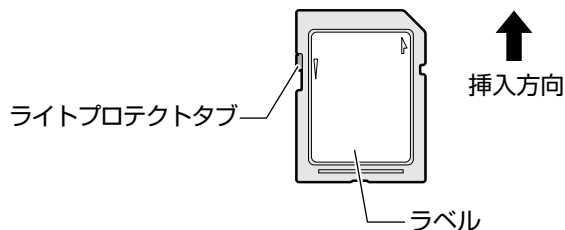
あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

● ご使用いただけるメモリ容量について

SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI 規格に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、ご使用いただけるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

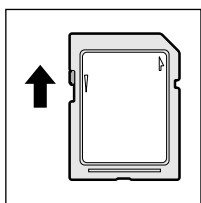
● ライトプロテクトタブ

SDメモ리카ードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。

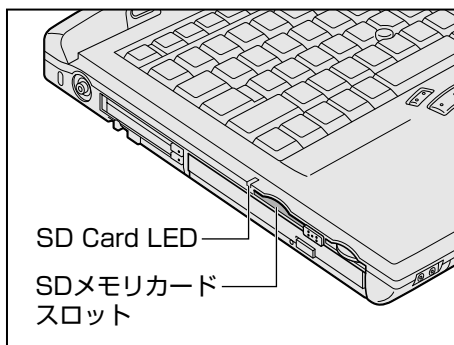


書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みも読み取りもできます。

● SDメモ리카ードスロットに関する表示

SDメモ리카ードとデータをやり取りしているときは、SD Card LEDが点灯します。



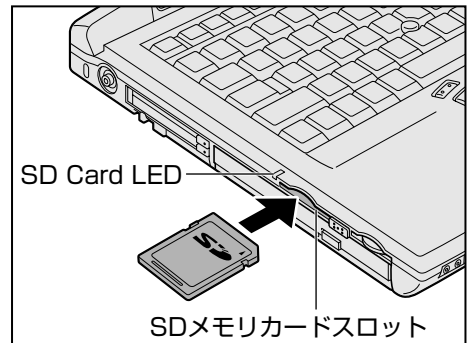
● セットと取り出し

- !** 注意
- ・SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SDメモ리카ードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやSDメモ리카ードが壊れるおそれがあります。
 - ・SDメモ리카ードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモ리카ードのデータが壊れるおそれがあります。

● セット

1 SDメモ리카ードのラベルを貼られた面を上にして、SDメモ리카ードスロットに挿入する



「カチッ」と音がするまで挿入します。




● 取り出し

1 SDメモ리카ードの使用を停止する


XP

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2000

- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive を停止します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

98

- ① タスクバーの [SDカードを停止します] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive を停止します] をクリックする
- ③ 「取り出しても安全です」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 SDメモ리카ードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

10 増設メモリ

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAにはすでに128MBのメモリが取り付けられています。

別売りのメモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることにより最大512MBまで拡張することができます。

増設メモリは本製品で動作が保証されているものをご使用ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

仕様に合わない増設メモリを取り付けると、パソコン本体が起動せず、警告音（ピー音）が鳴ります。スロットAに取り付けた場合は「ピー・ピッ」、スロットBに取り付けた場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

● 取り付け／取りはずしのご注意



警告 ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。



注意 ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずにお買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

- ・増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーバックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ・次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
 - ・スタンバイ中
 - ・休止状態中
 - ・LANのウェイクアップ機能を使用しているとき
 - ・電源を切った直後電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。
- ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。



お願い

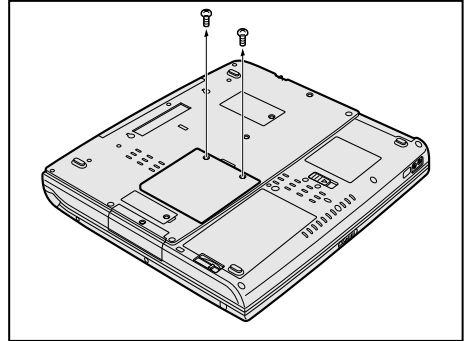
- ・増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- ・スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ・ネジをはずす際は、十字ねじ回しビット0番のドライバを使用してください。

● 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

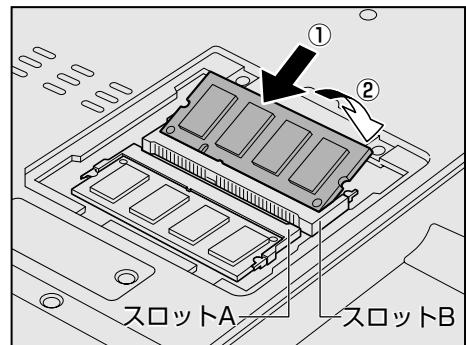
● 取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
☞ バッテリーパックの取りはずしかた ⇨ 「本章 4-3 バッテリーパックを交換する」
- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずし、カバーをはずす



- 5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。



- 6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 ではずしたネジ 2 本をとめる
- 7 バッテリーパックを取り付ける

☞ バッテリーパックの取り付けかた ⇨ 「本章 4-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいかどうかを次の方法で確認してください。

① XP

[スタート] - [すべてのプログラム] - [東芝ユーティリティ] - [PC 診断ツール] をクリックする

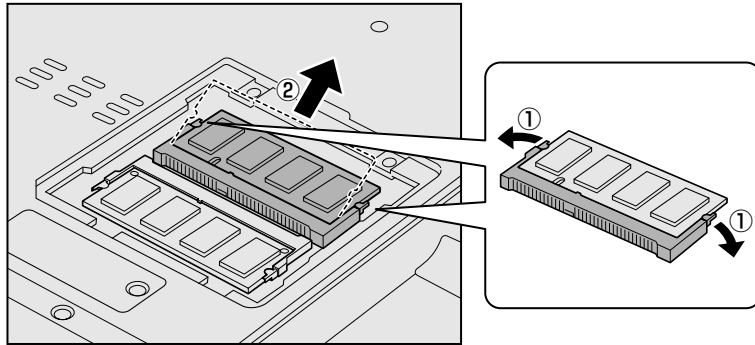
2000 98

[スタート] - [プログラム] - [東芝ユーティリティ] - [PC 診断ツール] をクリックする

- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

● 取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
☞ バッテリーパックの取りはずしかた ☞ 「本章 4-3 バッテリーパックを交換する」
- 4 増設メモリカバーのネジ2本をはずし、カバーをはずす
- 5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②
増設メモリを斜めに持ち上げて引き抜きます。



- 6 増設メモリカバーをつけて、手順4ではずしたネジ2本をとめる
- 7 バッテリーパックを取り付ける
☞ バッテリーパックの取り付けかた ☞ 「本章 4-3 バッテリーパックを交換する」

本章で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。取り付け／取りはずしの方法は機器によって違います。



注意

・電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしが認められていない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。



お願い

- ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- ・極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- ・静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- ・本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

● パソコン本体へケーブルを接続するとき

次の点に注意して、接続してください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときには、コネクタの上下や方向を合わせる
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締める



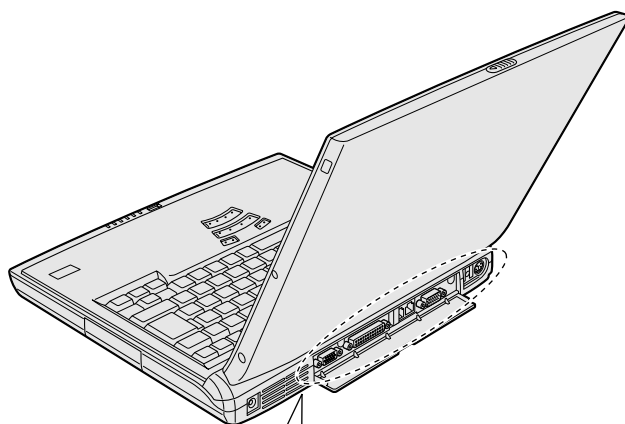
お願い

・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

周辺機器を使用するときは、この他に作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は、使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をご覧ください。

● 各インタフェースの名称

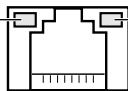
イラストはコネクタのカバーを開いた状態です。



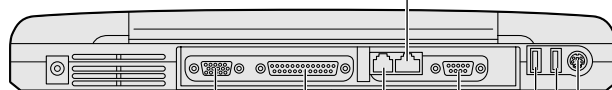
{Ether} LANコネクタ

ネットワークケーブルを接続します。
ネットワークに接続するには、ネットワークの設定が必要です。
ネットワーク管理者の指示に従って、設定を行なってください。

LANアクティブLED (橙)
データを送受信している
ときに点灯します。



リンクLED (緑)
ネットワークに正常に
接続され、使用可能な
ときに点灯します。



□ RGBコネクタ

CRTディスプレイを接続して使用できます。

☞ 表示の切り替え

☞ 「本節 - CRTディスプレイやテレビを接続した場合」

🖨️ PRTコネクタ

プリンタを接続して使用します。

📞 モジュラージャック

モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、
モデム機能を使用します。

☞ 電話回線の接続 ☞ 「本節 - 電話回線への接続」

{...} COMMSコネクタ

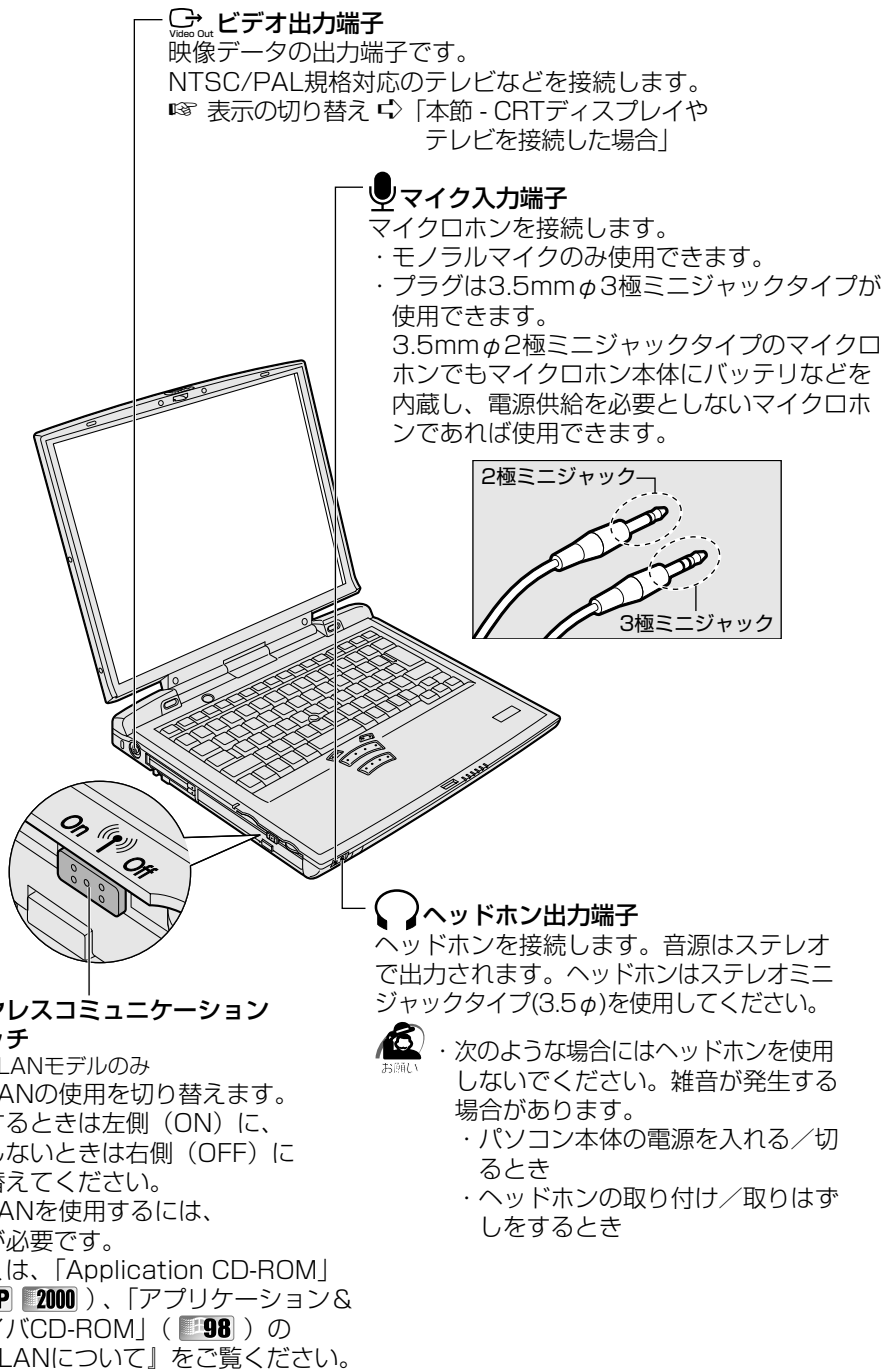
RS-232C規格の機器を取り付けられます。
マウスなどにRS-232C規格のものがあります。

🔌 USBコネクタ

USB (Universal Serial Bus) 規格の機器が取り付けられます。

🖱️ / ⌨️ PS/2コネクタ

PS/2対応のキーボードやマウスを取り付けられます。
接続するときは、パソコン本体の電源を必ず切ってください。



● CRT ディスプレイやテレビを接続した場合

CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

テレビを接続した場合、表示装置を切り替えないと、テレビには表示されません。次の方法でテレビや CRT ディスプレイの表示装置を切り替えることができます。



お願い

- ・次のようなときには、表示方法を切り替えしないでください。データが消失するおそれがあります。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
 - ・通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。



メモ

- ・CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- ・MS-DOS モードを選択している場合、パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示はできません。

● 方法 1 - 画面のプロパティで設定する

1

[スタート] - [コントロールパネル] をクリック - [デスクトップの表示とテーマ] をクリック - [画面] をクリックする

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリック - [画面] をダブルクリックする

2 [設定] タブで [詳細設定] または [詳細] ボタンをクリックする

3 [表示デバイス] タブで表示する装置を有効にする

表示装置名をクリックすると有効になり、文字が黄色になります。

- LCD パソコン本体のディスプレイに表示
- CRT CRT ディスプレイに表示
- TV テレビに表示

[LCD] と [CRT] を有効にすると同時表示されます。

[LCD] と [TV] に同時表示したいときは、[ディファレントリフレッシュレート] をチェック () してから、有効にしてください。

● 方法2 - [Fn] + [F5] キーを使う

[Fn]キーを押したまま、[F5]キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。[F5]キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、[Fn]キーをはなすと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置がLCD（パソコン本体のディスプレイ）以外に設定されている場合、[Fn]+[F5]キーを3秒間押し続けると、表示装置がLCDに戻ります。これは最初に[Fn]+[F5]キーを押したときのみ有効です。



- LCD パソコン本体のディスプレイだけに表示
- LCD / CRT パソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT CRTディスプレイだけに表示
CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示
パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示が可能に設定されている場合のみ、この状態に切り替わります。
同時表示する方法については、方法1の手順3をご覧ください。
- TV テレビだけに表示
パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。

CRTディスプレイを接続した場合は、次の方法でも設定することができます。

● 方法3 - [東芝HWセットアップ] で設定する

1 XP

[スタート] - [コントロールパネル] をクリック - [プリンタとその他のハードウェア] をクリック - [東芝HWセットアップ] をクリックする

2000 98

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリック - [東芝HWセットアップ] をダブルクリックする

2 [ディスプレイ] タブで [起動時の表示装置] を設定する

- 内部 / 外部を自動選択 ... CRTディスプレイだけに表示（CRTディスプレイ接続時）
- 内部 / 外部を同時使用 ... パソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示

● 方法4 - [セットアッププログラム] で設定する

1 「セットアッププログラム」を起動する

☞ 起動方法 ☞ 「4章 2-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 [DISPLAY] で [Power On Display] を設定する

☞ 「4章 2-4 設定項目」

● 電話回線への接続

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを使って2線式の電話回線に接続します。本装置の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルク、レバノン、ロシア

(2001年12月現在)

また、公衆回線網の通信規格は各地域により異なりますので、ご使用になる地域に合わせて設定が必要です。ご購入時は「日本」に設定されています。

☞ 「本項 - 地域設定を変更する」

内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。

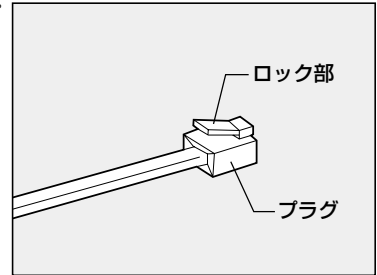
通信先のプロバイダが V.90 以外の場合は、最大 33.6kbps で接続されます。

● モジュラーケーブルの取り付け



お願い

- ・モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

ロック部を上に向けて差し込んでください。

2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

ISDN 回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ (TA) またはダイヤルアップルータのアナログポートなどに接続してください。



注意

- ・内蔵モデムは使用できる地域が限定されます。指定以外の地域で内蔵モデムを使用すると故障のおそれがあります。使用できる地域をよくご確認のうえ、ご使用ください。
- ・内蔵モデムは一般電話回線 (アナログ回線) に接続して使用してください。デジタル回線 (ISDN 回線など) には接続できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機 (PBX) へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。



お願い

- ・モジュラープラグをモジュラージャックに接続するときは、「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。
- ・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- ・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの (未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの) を使用してください。
- ・モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。



メモ

- ・PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
 - ・通信回線の速度が遅くなる
 - ・通信回線が切断される
 - ・ダイヤルに失敗する
 - ・サウンド再生時に音飛びが発生する

● モジュラーケーブルの取りはずし

1 パソコン本体と電話機用モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグを抜く

● 地域設定を変更する

内蔵されているモデムを、海外で使用する場合は、公衆回線網の通信規格が各地域により異なりますので、ご使用になる地域にあわせて「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で内蔵モデムの地域設定を行なってください。ご購入時は、「日本」に設定されています。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードでご使用ください。

他地域のモードでご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。



お願い


・Windows XP / 2000 の場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」は、Administrators グループ（コンピュータ管理者）のユーザアカウントで起動してください。それ以外のユーザが起動しようとすると、エラーメッセージが表示され、起動できないことがあります。

1 XP




[スタート] - [すべてのプログラム] - [TOSHIBA Internal Modem] - [Region Select Utility] をクリックする

2000 98

[スタート] - [プログラム] - [TOSHIBA Internal Modem] - [Region Select Utility] をクリックする

内蔵モデム用地域選択ユーティリティが起動し、タスクバーに [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が表示されます。

2 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示され、地域名のサブメニューとして、[電話とモデムのオプション] ( ) またはテレフォニー () の所在地情報名が表示されます。

現在設定されている地域設定と、所在地情報名にチェックマークがつきます。

3 使用する地域名、または所在地情報名を選択し、クリックする

地域名を選択した場合、モデムの地域設定を行なった後、新しく所在地情報が作成されます。この場合、現在の所在地情報は新しく作成されたものになります。

所在地情報名を選択した場合、その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

● その他の設定







「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、その他の設定の確認や変更をする場合は、次の手順で行なってください。

1 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックする

メニューが表示されます。確認や変更する項目を選択してください。

設定



チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

- 自動起動モード
システム起動時に自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
- 地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する
地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] ()、またはテレフォニーの [ダイヤルのプロパティ] () が表示されます。
- 場所設定による地域選択
[電話とモデムのオプション] ()、またはテレフォニー () の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
- モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示
モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] ()、またはテレフォニー () の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、注意の画面を表示します。

モデム選択

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

ダイヤルのプロパティ

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] ()、またはテレフォニーの [ダイヤルのプロパティ] () が表示されます。

● AT コマンド

AT コマンドの説明については、「Application CD-ROM」 ()、「アプリケーション & ドライバ CD-ROM」 () をセットして表示される画面をご覧ください。

● 内蔵モデム

内蔵モデムを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめ内蔵モデムが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。

あらかじめ内蔵モデムが取り付けられているモデルの場合は、モデムを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。



警告 ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。



注意 ・内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
・電源を切った直後には、内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。内蔵モデムの取り付け／取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
・内蔵モデムを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。

● 取り付け

- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす
- 4 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ1本をはずし、カバーを取りはずす
- 5 モデムボードのネジ2本を取りはずす
- 6 接続コードをモデムボードに取り付ける
- 7 モデムボードをパソコン本体に取り付ける
- 8 手順5でははずしたモデムボードのネジ2本をとめる
- 9 手順4でははずしたカバーをはめ、ネジ1本をとめる
- 10 バッテリーパックを取り付ける

● 取りはずし

- 1** データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2** パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3** パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす
- 4** 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ 1 本をはずし、カバーを取りはずす
- 5** モデムボードのネジ 2 本を取りはずす
- 6** 接続コードをモデムボードから取りはずす
- 7** モデムボードをパソコン本体から取りはずす
- 8** 手順 5 でははずしたモデムボードのネジ 2 本をとめる
- 9** 手順 4 でははずしたカバーをはめ、ネジ 1 本でとめる
- 10** バッテリーパックを取り付ける

4

システム構成とパスワードセキュリティ

本章では、パソコン本体のシステム構成の設定や、パスワードの登録／削除などについて説明します。

1	東芝HW セットアップ	116
2	セットアッププログラム	121
3	パスワードセキュリティ	136

1 東芝 HW セットアップ

「東芝 HW セットアップ」は、ハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

● 起動方法

1 XP

[スタート] - [コントロールパネル] をクリック - [プリンタとその他のハードウェア] をクリック - [東芝 HW セットアップ] をクリックする

2000 98

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリック - [東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする



メモ

・「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「HW セットアップの起動禁止」に設定している状態で、パソコンの電源を入れたときにユーザパスワードを入力すると、「東芝 HW セットアップ」は起動しません。

☞ 「スーパーバイザパスワード設定ツール」について

☞ 「本章 3-2 スーパーバイザパスワード」

● [全般] タブ

セットアッププログラムのバージョンなどを表示します。

● [標準設定] ボタン

東芝 HW セットアップの設定をご購入時の状態に戻します。

● [バージョン情報] ボタン

東芝 HW セットアップのバージョンを表示します。

● [パスワード] タブ

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。

☞ パスワードについて ☞ 「本章 3 パスワードセキュリティ」

● [デバイスの設定] タブ

パソコンが起動したときにセットアッププログラムが初期化するデバイスを指定します。

デバイスの設定

● 全デバイス設定

すべてのデバイスを初期化します。

● OS による設定（標準値）

システムをロードするのに必要なデバイスのみ初期化します。それ以外のデバイスはシステムが初期化します。

● 【プリンタ】 タブ

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。ご使用になるプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。

プリンタポートモード

- ECP（標準値）
ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。
- 双方向
双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用する場合に設定します。

● 【ポインティング装置】 タブ

アキュポイントⅡやマウスについて設定します。

ポインティング装置

- 内部 / 外部を自動選択（標準値）
システム起動時に、PS/2 マウスが接続されている場合は、PS/2 マウスだけが使用できます。システム起動時に、PS/2 マウスが接続されていない場合は、アキュポイントⅡだけが使用できます。
- 内部 / 外部を同時使用
アキュポイントⅡと PS/2 マウスを同時に使用できます。



・PS/2 マウスの仕様によっては、[内部 / 外部を同時使用] に設定しても、アキュポイントⅡと同時に使用できない場合があります。その場合は、[内部 / 外部を自動選択] に設定し、PS/2 マウスだけで使用してください。

● 【ディスプレイ】 タブ

パソコンが起動したときに表示する装置を選択します。

起動時の表示装置

- 内部 / 外部を自動選択（標準値）
システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。
- 内部 / 外部を同時使用
外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。
☞ 表示の切り替え ⇨ 「3 章 11- CRT ディスプレイやテレビを接続した場合」

[CPU] タブ

CPUに関する設定をします。

CPU周波数の設定

● ダイナミック切替モード（標準値）

CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。

● 常時高速モード

CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。

● 常時標準モード

CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

[OSの起動] タブ

OSの起動について設定します。

OSの起動

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

起動装置の選択メッセージ

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

● 表示する（標準値）

メニュー起動メッセージを表示します。

電源を入れると、次の「メニュー起動メッセージ」が1、2秒間表示されます。

Press [F12] for the boot device selection menu

このメッセージが表示されている間に[F12]キーを押すと、起動するドライブの選択メニュー画面が表示されます。起動したいドライブに対応したキーを押すと、一時的にそのドライブを起動最優先ドライブに設定し、起動します。選択するキーは次のようになっています。

[C]キー スリムセレクトベイのCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ（別売り）またはマルチドライブ（別売り）*から起動します。

[N]キー 内蔵LANから起動します。

[U]キー USBフロッピーディスクドライブから起動します。

[1]キー 標準ハードディスクから起動します。

[2]キー セカンドハードディスク（別売り）から起動します。

[P]キー PCカードハードディスクドライブ（別売り）から起動します。

[D]キー 通常の設定された起動ドライブから起動します。

なお、これらのキーによって設定は変更されません。

*スリムセレクトベイにCD-ROMドライブ／CD-R/RWドライブ／マルチドライブが取り付けられていない場合、使用できません。



・電源を入れたときや再起動時に、キーを押し続けた場合は、設定内容と違うドライブから起動することができます。

● **表示しない**

メニュー起動メッセージを表示しません。

HDDの起動

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- 標準HDD → 増設HDD (標準値)
- 増設HDD → 標準HDD

● **【キーボード】 タブ**

キーボードについて設定します。

外部キーボードのFnキー割り当て

PS/2コネクタに接続した外部キーボードで、**[Fn]**キーの代わりに使用できるキーを設定します。USBキーボードには設定できません。

[Fn]キーの割り当てをしない場合は、**[無効]**に設定します。

● **【USB】 タブ**

USB対応機器について設定します。

USBキーボード/マウスレガシーサポート

USBキーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- **有効にする (標準値)**
レガシーサポートを行います。ドライバなしでUSBキーボード、USBマウスが使用可能になります。
- **無効にする**
レガシーサポートを行いません。

USBフロッピーディスクレガシーサポート

USBフロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- **有効にする (標準値)**
レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- **無効にする**
レガシーサポートを行いません。

● [LAN] タブ

LAN 機能について設定します。

LANのウェイクアップ

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

- 使用する
- 使用しない (標準値)

内蔵LAN

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

- 使用する (標準値)
- 使用しない

● ヘルプの起動方法

- 1** [東芝HWセットアップ] を起動し、画面右上の **?** または **?** をクリックする
ポインタが **?** に変わります。
- 2** 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

② セットアッププログラム

セットアッププログラムとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。BIOS と呼ばれる場合もあります。

● セットアッププログラムをご使用になる前に

- ・通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行なってください。セットアッププログラムと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- ・ご使用のシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- ・セットアッププログラムで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗した場合は標準設定値に戻ります。

① セットアッププログラムを起動する方法



メモ

・「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「HW セットアップの起動禁止」に設定している状態で、パソコンの電源を入れたときにユーザパスワードを入力した場合には、セットアッププログラムは起動しません。

☞ 「スーパーバイザパスワード設定ツール」について

⇨ 「本章 3-2 スーパーバイザパスワード」

● Esc キーで起動する

- 1 **Esc** キーを押しながら電源を入れる
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。
- 2 **F1** キーを押す
セットアッププログラムが起動します。

● MS-DOS 上から起動する (98)

Windows 98 のみ使用できます。

Windows 2000 の場合、MS-DOS 上からは起動できません。

- 1 **[スタート]** - **[Windows の終了]** - **[MS-DOS モードで再起動する]** を選択する
[スタート] - [プログラム] - [MS-DOS プロンプト] からは起動できません。
- 2 **C D Space ¥ T O S S E T** と半角英数字で入力し、**Enter** キーを押す
プロンプトが「C:¥TOSSET>」になります。
- 3 **U S** と半角英数字で入力し、**Enter** キーを押す
英語モードに切り替わります。
- 4 **T S E T U P** と半角英数字で入力し、**Enter** キーを押す
セットアッププログラムが起動します。

② セットアッププログラムを終了する方法

変更した内容を反映させて終了します。

1 **[Fn] + [→]** キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 **[Y]** キーを押す

設定内容が反映され、セットアッププログラムが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

● セットアッププログラムを途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には行います。

この場合は変更した内容はまったく反映されません。設定値は変更前の状態のままです。

1 **[Esc]** キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 **[Y]** キーを押す

セットアッププログラムが終了します。

3 セットアッププログラムの画面

セットアッププログラムには次の2つの画面があります。

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X. XX

①	MEMORY Total = 131072KB	OTHERS Power-up Mode = Boot CPU Cache = Enabled Level 2 Cache = Enabled Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable Auto Power On = Disabled	⑥
②	PASSWORD Not Registered		
③	BATTERY Battery Save Mode = Full Power		
④	PERIPHERAL Pointing Devices = Auto-Selected Ext Keyboard "Fn" = Disabled Parallel Port Mode = ECP Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)	BOOT PRIORITY Boot Priority = HDD→FDD→CD-ROM→LAN HDD Priority = Built-in HDD→Second HDD Power On Boot Select = Enabled	⑦
⑤	DISPLAY Power On Display = Auto-Selected LCD Display Stretch = Disabled TV Type = NTSC		

↑↓↔: Select items **Space, BkSp** : Change values **PgDn, PgUp** : Change pages
Esc : Exit without saving **Home** : Set default values **End** : Save changes and Exit

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X. XX

⑧	CONFIGURATION Device Config. = Setup by OS	PC CARD Controller Mode = Auto-Selected	⑫
⑨	I/O PORTS Serial = COM1(3F8H/IRQ4) Parallel = LPT1(378H/IRQ7/CH3)	DRIVES I/O Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14) Select Bay = Secondary IDE(178H/IRQ15)	⑬
⑩	PCI BUS PCI BUS = IRQ11		
⑪	LEGACY EMULATION USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled USB-FDD Legacy Emulation = Enabled	PCI LAN Built-in LAN = Enabled	⑭

↑↓↔: Select items **Space, BkSp** : Change values **PgDn, PgUp** : Change pages
Esc : Exit without saving **Home** : Set default values **End** : Save changes and Exit

☞ 設定項目の詳細について ⇨ 「本節 4 設定項目」



● 基本操作

基本操作は次のとおりです。





● 変更したい項目の選択方法

セットアッププログラム画面中、反転している部分が現在変更できる項目です。
変更する項目に移動するには、, , , キーを使います。



● 項目の内容の変更方法

またはキーを押す
項目の内容が変わります。

● 画面を切り替える方法

+または+キーを押す
次の画面または前の画面に切り替わります。

● 設定内容を標準値にする方法

+キーを押す
次にあげる項目以外は、設定内容が標準設定になります。

- ・ PASSWORD
- ・ Hard Disk Mode
- ・ Write Policy

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない



お願い

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

● Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやアキュポイントIIの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、**[Shift]** キーを押すか、マウス、アキュポイントIIを操作してください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」「03Min.」「05Min.」「10Min.」「15Min.」「20Min.」「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」「03Min.」「05Min.」「10Min.」「15Min.」「20Min.」「30Min.」から選択します。



メモ

ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

● LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する
- ・ Bright 高輝度に設定する
- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する

● Cooling Method (CPU 熱制御方式)

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

- ・ Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させて CPU に風を送り、冷やします。
- ・ Performance CPU が高温になったときに、本体内にあるファンが作動し CPU に風を送り、冷やします。
- ・ Battery Optimized CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。



- ・ CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。高熱状態が続く場合は、自動的にレジューム機能を効かせた状態で電源を切り、パソコンを故障から守ります。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、 キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

④ PERIPHERAL

HDD や外部装置の設定をする

▼ Pointing Devices (ポインティング装置)

アキュポイント II を使用するか、外部 PS/2 マウスを使用するかを設定します。

- ・ Auto-Selected (標準値) アキュポイント II または PS/2 マウスどちらか 1 つを使用する
PS/2 マウスを接続している場合は、PS/2 マウスだけが使用できます。PS/2 マウスを接続していない場合は、アキュポイント II が使用できます。
- ・ Simultaneous アキュポイント II と PS/2 マウスを同時に使用する

▼ Ext Keyboard "Fn"

PS/2 コネクタに接続した外部キーボードの **[Fn]** キーの割り当てをします。

USB キーボードには設定できません。

- ・ Disabled (標準値) **[Fn]** キーの代替えキー割り当てをしない
- ・ Enabled 次のキーを **[Fn]** キーの代替えキーとして割り当てる
 - ・ Left Alt+Left Shift
 - ・ Left Ctrl+Left Alt
 - ・ Right Ctrl+Right Alt
 - ・ Right Alt+Right Shift
 - ・ Left Alt+Caps Lock

▼ Parallel Port Mode

パラレルポートモードの設定をします。

- ・ ECP (標準値) ECP 対応に設定する
大半のプリンタでは、ECP に設定します。
- ・ Std.Bi-Direct. 双方向に設定する
一部のプリンタおよび、プリンタ以外のパラレル装置を使用する場合に設定します。

▼ Hard Disk Mode

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行なってください。

- ・ Enhanced IDE(Normal)(標準値)
..... 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

⑤ DISPLAY

表示装置の設定をする

▼ Power On Display

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値)
..... システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
- ・ Simultaneous 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時表示する



・ SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「Simultaneous」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

▼ LCD Display Stretch

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Enabled 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
表示モードによっては伸張しない場合があります。
- ・ Disabled (標準値) 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

▼ TV Type

テレビ受信機を選択します。

- ・ NTSC (標準値) 日本と米国仕様のテレビ受信機
- ・ PAL ヨーロッパ仕様のテレビ受信機

⑥ OTHERS**その他の設定をする****▼ Power-up Mode (レジューム機能)**

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) レジューム機能を無効にする
- ・ Resume レジューム機能を有効にする

▼ CPU Cache (キャッシュ)

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない
- ・ Enabled (標準値) キャッシュメモリを使用する

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back (標準値) .. 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

▼ Level 2 Cache

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない

▼ Dynamic CPU Frequency Mode

- ・ Dynamically Switchable (標準値)
..... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。
- ・ Always High CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- ・ Always Low CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

▼ Auto Power On (タイマ・オン機能)



- ・ Windows 98 を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。
Windows 98 を使用している場合は Windows のタスクスケジューラを使用してください。
- ・ タイマ・オン機能は 1 回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定状態を示します。

- ・ Disabled (標準値) タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は[Space]または[BackSpace]キーで行います。時と分、月と日の切り替えは[↑][↓]キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能は COMMS コネクタに接続されたモデムまたは PC カードで使用できます。

- ・ Enabled リングインジケータ機能を使用する
- ・ Disabled リングインジケータ機能を使用しない

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake-up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled Wake-up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled Wake-up on LAN 機能を使用しない

▼ Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能)

ディスプレイの開閉による電源の入/切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

- ・ Enabled パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) パネルスイッチ機能を使用しない

⑦ BOOT PRIORITY

ブート優先順位を設定する

▼ Boot Priority

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。



メモ

・ 電源を入れたときや再起動時に、次のキーを押し続けると、設定内容と違うドライブから起動することができます。

[C] キー スリムセレクトベイのCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ(別売り)またはマルチドライブ(別売り)*から起動する

[N] キー 内蔵LANから起動する

[U] キー USBフロッピーディスクドライブから起動する

[1] キー 標準ハードディスクから起動する

[2] キー セカンドハードディスク(別売り)から起動する

[P] キー PCカードハードディスクドライブ(別売り)から起動する

[D] キー 通常の設定された起動ドライブから起動する

なお、これらのキーによって設定は変更されません。

*スリムセレクトベイにCD-ROMドライブ/CD-R/RWドライブ/マルチドライブが取り付けられていない場合、使用できません。

▼ HDD Priority

システムを起動するハードディスクドライブの順番を設定します。

- ・ Built-in HDD → Second HDD (標準値)
標準ハードディスク→セカンドハードディスクの順で起動する
- ・ Second HDD → Built-in HDD
セカンドハードディスク→標準ハードディスクの順で起動する

▼ Power On Boot Select

電源を入れたときに起動するドライブを選択する機能を使用するかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) 使用可能にする
- ・ Disabled 禁止する

「Enabled」に設定した場合は電源を入れたとき「Press [F12] for the boot device selection menu」というメッセージが表示されます。[F12]キーを押して表示されるメニューから起動するドライブを選択します。選択するキーは次のようになっています。

- [C]キー ... スリムセレクトベイのCD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ (別売り) またはマルチドライブ (別売り)* から起動する
- [N]キー ... 内蔵 LAN から起動する
- [U]キー ... USB フロッピーディスクドライブから起動する
- [1]キー ... 標準ハードディスクから起動する
- [2]キー ... セカンドハードディスク (別売り) から起動する
- [P]キー ... PC カードハードディスクドライブ (別売り) から起動する
- [D]キー ... 通常の設定された起動ドライブから起動する

なお、これらのキーによって設定は変更されません。

*スリムセレクトベイにCD-ROM ドライブ/CD-R/RW ドライブ/マルチドライブが取り付けられていない場合、使用できません。



メモ ・電源を入れたときや再起動時に、キーを押し続けた場合は、設定内容と違うドライブから起動することができます。

⑧ CONFIGURATION

▼ Device Config. (デバイス・コンフィグ)

ブート時に BIOS が初期化するデバイスを指定する

- ・ Setup by OS (標準値)
..... OS をロードするのに必要なデバイスのみ初期化する
それ以外のデバイスは OS が初期化します。この場合、「PC CARD」内の設定は「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・ All Devices すべてのデバイスを初期化する

⑨ I/O PORTS**I/O ポートの設定をする****▼ Serial**

シリアルポートの割り当てを設定します。

- ・ Not Used..... シリアルポートを割り当てない
 - ・ COM1 (標準値)
 - ・ COM2
 - ・ COM3
 - ・ COM4
- } 指定のポートを割り当てる

▼ Parallel

パラレルポートの割り当てを設定します。

- ・ Not Used..... パラレルポートを割り当てない
- ・ LPT1 (標準値)
- ・ LPT2
- ・ LPT3

「Not Used」以外を選択すると、「OPTION」ウィンドウが開きます。
「OPTION」ウィンドウの項目について次に説明します。

● DMA

DMAチャンネルを設定します。

「Parallel Port Mode」が「ECP」の場合に設定できます。

- ・ DMA = Channel 3 (標準値)
- ・ DMA = Channel 1

⑩ PCI BUS**PCIバスの割り込みレベルを表示する****▼ PCI Bus**

PCIバスの割り込みレベルを表示します。

変更はできません。

⑪ LEGACY EMULATION

レガシーエミュレーションの設定をする

▼ USB KB/Mouse Legacy Emulation

USB キーボード／マウスのエミュレーションを設定します。

- ・ Enabled (標準値) USB キーボード／マウスのレガシーサポートを行うドライバなしで USB キーボード／マウスが使用可能になります。
- ・ Disabled USB キーボード／マウスのレガシーサポートを行わない



メモ

- ・ この USB KB/Mouse Legacy Emulation は、USB マウス、USB キーボードだけに適用されます。USB マウスと USB キーボードを使用する場合は、パソコンを起動する前にマウス、キーボードを接続しておく必要があります。

▼ USB-FDD Legacy Emulation

USB フロッピーディスクドライブのエミュレーションを設定します。

- ・ Enabled (標準値) USB フロッピーディスクのレガシーサポートを行うドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用可能になります。
- ・ Disabled USB フロッピーディスクのレガシーサポートを行わない

⑫ PC CARD

PC カードのモードを選択する

▼ Controller Mode

PC カードのモードを選択します。

「Device Config.」が「All Devices」の場合に変更できます。

- ・ Auto-Selected (標準値)
..... Windows XP / 2000 / 98 などの、Plug & Play に対応した OS を使用している場合、選択します。
- ・ CardBus/16-bit Windows NT (Ver.4 以下) を使用しているとき、または、Auto-Selected で正常に動作しない Card Bus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible Windows NT (Ver.4 以下) を使用しているとき、または、Auto-Selected や CardBus/16-bit で正常に動作しない 16-bit PC カードを使用する場合に選択します。

⑬ DRIVES I/O**HDD やスリムセレクトベイの設定****▼ Built-in HDD**

標準ハードディスクのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。
変更はできません。

▼ Select Bay

スリムセレクトベイ機器のアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。
変更はできません。

⑭ PCI LAN**▼ Built-in LAN**

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

3 パスワードセキュリティ

本製品では、電源を入れたとき、スタンバイ状態や休止状態から復帰するときにパスワードの入力を要求するパスワードセキュリティ機能を設定できます。

パスワードには、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードがあります。

通常はユーザパスワードを登録してください。

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人のために用意されています。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、セットアッププログラムの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードに関して、次の表をご覧ください。

本節では、ユーザパスワードの設定方法、キーフロッピーディスク*1の作成方法、スーパーバイザパスワードプログラムについて説明します。

ユーザパスワード		スーパーバイザパスワード
設定方法	キーフロッピーディスク ¹ の作成	
・ 東芝HWセットアップ ・ セットアッププログラム ※「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。	セットアッププログラム	スーパーバイザパスワード設定ツール ☞ 「本節 2 スーパーバイザパスワード」

*1 ユーザパスワードを忘れてしまった場合に使用します。



・パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

● パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「**** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : . / (スペース)
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない (入力するときに [Shift] キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など ・ ¥ (エン) ¥ キーや ¥ キーを押すと ¥ が入力されます。	

1 ユーザパスワード

● ユーザパスワードの登録

キーフロッピーディスクを作成したい場合は、「セットアッププログラム」で登録してください。また、その場合フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクが必要です。

● 東芝HWセットアップでの登録

1 XP

[スタート] - [コントロールパネル] をクリック - [プリンタとその他のハードウェア] をクリック - [東芝HWセットアップ] をクリックする

2000 98

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリック - [東芝HWセットアップ] をダブルクリックする

2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする

パスワードが登録されている場合は、[登録] にチェックがついています。その場合は、パスワードを削除してから登録してください。

☞ パスワードの削除 ⇨ 「本節 1- ユーザパスワードの削除」

3 [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

4 [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

5 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

● セットアッププログラムでの登録

1 セットアッププログラムを起動する

☞ 「本章 2-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、 [Space] または [BackSpace] キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

☞ パスワードの削除方法 ⇨ 「本節 1- ユーザパスワードの削除」

3 ユーザパスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。入力すると1文字ごとに*が表示されます。

☞ 入力できる文字 ⇨ 「本節-パスワードとして使用できる文字」

4 **Enter**キーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。入力すると1文字ごとに*が表示されます。

6 **Enter**キーを押す

ユーザパスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、**Fn**+**→**キーを押す

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.

8 キーフロッピーディスクを作成する

次の「キーフロッピーディスクの作成手順」に従って操作してください。

キーフロッピーディスクを作成しない場合、そのまま終了するには**Y**キーを押します。セットアッププログラム画面に戻るには**N**キーを押します。

キーフロッピーディスクの作成手順

ユーザパスワードを忘れた場合に使用する、キーフロッピーディスクを作成します。

① USB フロッピーディスクドライブを接続する

② フォーマット済みの2DDまたは2HD (1.44MB) フロッピーディスクをセットする



注意 ・壊されては困るデータの入っているフロッピーディスクは使用しないでください。
データが消失します。

③ **Y**キーを押す

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

④ セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は**1**キーを、2DDの場合は**2**キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

⑤ フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

● ユーザパスワードの削除

● 東芝HWセットアップでの削除

1 XP

[スタート] - [コントロールパネル] をクリック - [プリンタとその他のハードウェア] をクリック - [東芝HWセットアップ] をクリックする

2000 98

[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリック - [東芝HWセットアップ] をダブルクリックする

2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする

3 [パスワードの入力] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする




メモ

・パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行なってください。

● セットアッププログラムでの削除

1 セットアッププログラムを起動する

 「本章 2-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、**[Space]**または**[BackSpace]**キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるユーザパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 **[Enter]**キーを押す

ユーザパスワードが削除されます。

入力したユーザパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。



メモ

・入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合には、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行なってください。

● ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードの削除を行ってから、登録を行なってください。

 「本節 1- ユーザパスワードの削除」、「本節 1- ユーザパスワードの登録」

② スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。「スーパーバイザパスワード設定ツール」は、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更をするためのユーティリティです。



メモ

・パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

● 起動方法

- 1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする
詳しくは、「README.HTM」をご覧ください。

● 「README.HTM」の起動方法

- 1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

③ パスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると次のようになります。

- 「Password= 」と表示される
- 画面が消えた状態になる（タイマ・オン機能が設定されているとき）

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、**[Enter]**キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

ユーザパスワードを忘れた場合は、キーフロッピーディスクを使用してください。



メモ


・パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

● ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。



メモ

・キーフロッピーディスクは、スタンバイ状態、休止状態（98）実行時には使用できません。これらの機能を実行中に、パスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

パスワードの解除を保守サービスに依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要です。

- ① USB フロッピーディスクドライブを接続する
- ② 「Password=」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**[Enter]**キーを押す
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

- ③ ユーザパスワードを再設定する場合は、**[Y]**キーを押す
セットアップ画面が表示されます。「本節 1- セットアッププログラムでの登録」の手順2以降を行なってください。再設定後、システムが再起動します。
ユーザパスワードを再設定しない場合は、**[N]**キーを押す
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk,then press any key

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

● 起動時にユーザパスワードを入力した場合

スタンバイ機能、休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。



メモ

- ・スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。
スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。
 - ☞ 「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
 - ☞ 「本節 2 スーパーバイザパスワード」

● 起動時にスーパーバイザパスワードを入力した場合

スタンバイ機能を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはスーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードの入力は受け付けません。休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。



メモ

- ・スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。
スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。
 - ☞ 「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
 - ☞ 「本節 2 スーパーバイザパスワード」